平成29年度
薬剤師生涯教育推進事業
報告書

平成30年3月

公益社団法人
日本薬剤師会
Japan Pharmaceutical Association

平成 29 年度　薬剤師生涯教育推進事業　報告書　目次

Ⅰ　事業の概要 …… 1
1．事業の位置づけ …… 1
2．事業の目的 …… 1
3．事業の構成及び概要 …… 1
4．実施体制 …… 2
5．事業実施期間 …… 5

Ⅱ　研修プログラムの策定 …… 7
1．事業実施委員会における検討 …… 7
2．研修プログラム策定委員会における検討 …… 8
3．研修会運営委員会の開催 …… 10

Ⅲ　研修会の開催 …… 13
1．研修会概要 …… 13
2．研修会プログラム及び講師、ファシリテーター …… 13
3．研修会の開催 …… 15

Ⅳ　研修プログラムの評価 …… 20
1．受講者アンケート …… 20
2．研修プログラム評価委員会による評価 …… 32

Ⅴ　施設見学 …… 37
1．施設見学の目的と概要 …… 37
2．施設見学の実施 …… 38
3．施設見学における留意点・課題 …… 40

Ⅵ　地域展開に向けた取り組み …… 42
1．都道府県薬剤師会との連携・協働 …… 42
2．受講後課題（地域等における研修計画の立案）…… 42
3．地域での実現に向けて …… 42

Ⅶ　まとめ …… 45

＜巻末資料＞
資料１　次世代薬剤師指導者研修会　講義・WS 資料 …… 47
資料２　次世代薬剤師指導者研修会　受講者課題（受講者提出）…… 249
資料３　次世代薬剤師指導者研修会　研修会運営リソース …… 511

Ⅰ　事業の概要

１．事業の位置づけ

当事業は、薬剤師生涯教育推進事業実施要綱（平成 22 年 4 月 22 日付薬食発 0422 第 12 号医薬食品局長通知．最終改正平成 29 年 7 月 24 日薬生発 0724 第 1 号）に基づき、厚生労働省の平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業の実施法人として実施した。【資料 1 】

２．事業の目的

良質な医療を地域医療提供体制の一員として薬剤師が地域住民へ提供していくためには、日進月歩していく高度化する医療技術への対応や知識の習得が重要である。そのために病院や地域におけるチーム医療に貢献できる薬剤師には医療水準に応じた生涯教育が必要とされる。特に処方箋受け取り率が全国平均 70％を超え、いわゆる医薬分業が相当程度浸透・定着してきた状況の中、薬剤師にはより一層、医薬品の専門家として医療提供体制の中でさらなる役割を発揮していくことが求められている。こうした中、薬剤師法において薬剤師の役割の一つが「薬学的知見に基づく指導」という表現で明記され、このことは、薬剤師の行動方針が明確化されたとも言える。同時に、「健康サポート薬局」の標榜が医薬品医療機器法の中で明記され、地域包括ケアシステムの中で、地域住民の健康保持増進へも一定の役割を期待されているといえる。

こうした状況を踏まえて本会では、病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師の養成に向け、地域の実情に応じた研修の企画・指導や、チーム医療の実践につなげることのできる地域の指導的立場を担う薬剤師（病院・薬局）の育成を行うことを目的とした研修事業を実施した。

３．事業の構成及び概要

「薬剤師生涯教育推進事業実施要綱」に示される研修目的に沿って、病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師の養成に向けその教育を担う薬剤師を育成するための研修（指導者研修）の実施（以下①)、ならびに、本事業による成果が全国的・継続的に活用されるよう、本会から都道府県薬剤師会に対して、研修受講者が地域において研修を企画・指導していけるように地域での研修を各薬剤師会の事業計画に盛り込む等の推進方策の検討・実施を要請した（以下②)。

① 指導者研修の実施：

「薬剤師生涯教育推進事業実施要綱」に示される研修目的に沿って、 病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師の養成に向けその教育を担う薬剤師を育成するための研修を行った。研修会には、各都道府県薬剤師会と連携して全国の都道府県から受講者を受け入れ、地域の実情に応じた研修の企画・指導や、チーム医療の実践につなげることのできる地域のチーム医療の指導的立場を担う薬剤師の育成を行った。

具体的には以下の事業を行った。

・研修プログラム及びテキストの作成
・指導者研修会の開催
・研修プログラムの評価
・薬局・病院相互の施設見学（モデル的に実施）

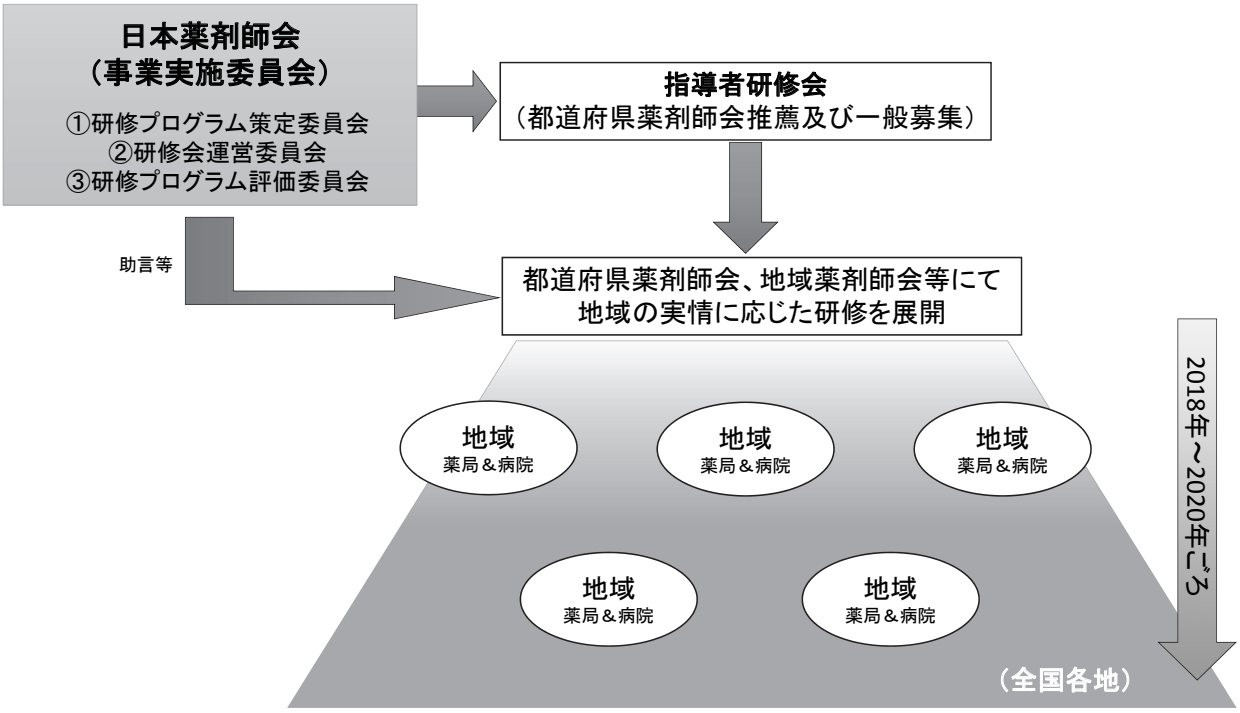
② 地域における事業展開を見据えた取り組み：

指導者研修の受講者が地域において研修を企画・指導していけるよう、受講者には、地域の実情に応じた「薬薬連携（※）・他職種連携の推進、チーム医療の実践につながる研修計画案の立案」に関する課題を課し、本研修会の内容を踏まえて受講者にて計画案作成の上、年度内に本会へ提出いただいた。

本会はその計画案を事業報告書等を用いて都道府県薬剤師会にフィードバックするとともに、都道府県薬剤師会に対し、研修受講者が立案した計画案を踏まえつつ、地域の実情に応じた研修の実施や、薬薬連携・チーム医療の推進を各薬剤師会の事業計画に盛り込む等の推進方策の検討・実施を要請した。

※薬薬連携：医療機関の薬剤師（以下、病院薬剤師）と薬局の薬剤師（以下、薬局薬剤師）との、異なる施設間での薬剤師同士の同職種連携のこと。

図表１　事業展開イメージ図



４．実施体制

（１）事業担当者

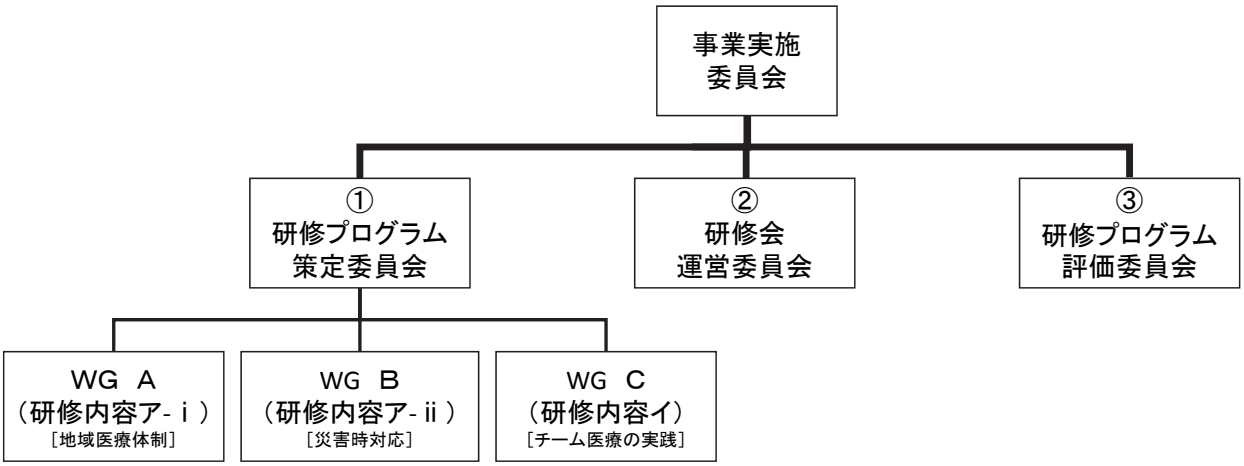
乾　　英夫（日本薬剤師会副会長・生涯学習担当）

宮﨑長一郎（日本薬剤師会常務理事・生涯学習担当）

（2）会議体

本事業では、上記事業担当者（生涯学習担当）を中心に、事業目的を踏まえた会内各担当役員による「事業実施委員会」を組織し、その下に、指導者研修に係る３つの委員会を設置して事業を進めた。会議体の組織に際しては、関係団体や学術・教育関係者等の外部有識者を招聘し、研修内容等について関係者の連携を図りながら事業を進めた。

図表２　委員会構成図



◆事業実施委員会

◎乾　　英夫（事業統括、副会長）
○宮﨑長一郎（事業担当者、常務理事（生涯学習担当））
吉田　力久（常務理事（医薬分業担当））
有澤　賢二（常務理事（地域医療・保健担当））
永田　泰造（常務理事（災害対策担当））
島田　光明（常務理事（DI・医療安全担当））
川上　純一（常務理事（病院診療所薬剤師部会担当））

①研修プログラム策定委員会　※研修内容は後述

研修プログラム策定委員会には、研修内容に応じて関連学会の有識者に参画を求め、３つのワーキンググループを設置した。

【ワーキンググループＡ】研修内容ア－ⅰ［地域医療体制］

有澤　賢二（日本薬剤師会　常務理事）
遠藤　一司（日本病院薬剤師会　専務理事）
大原　昌樹（綾川町国民健康保険陶病院　院長）
◎宮﨑長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
吉田　力久（日本薬剤師会　常務理事）
（オブザーバー）厚生労働省　医薬・生活衛生局総務課

（50 音順、敬称略）

【ワーキンググループＢ】研修内容ア－ⅱ［災害時対応］

遠藤　一司（日本病院薬剤師会　専務理事）
大友　康裕（日本集団災害医学会　理事）
永田　泰造（日本薬剤師会　常務理事）
◎宮﨑長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
渡邉　暁洋（日本災害医療薬剤師学会　理事）
（オブザーバー）厚生労働省　医薬・生活衛生局総務課

（50 音順、敬称略）

【ワーキンググループＣ】研修内容イ［チーム医療の実践］

大谷　壽一（日本医療薬学会　理事）
川上　純一（日本薬剤師会　常務理事）
島田　光明（日本薬剤師会　常務理事）
土屋　文人（日本病院薬剤師会　副会長）
平井みどり（日本老年薬学会　副代表理事）
◎宮﨑長一郎（日本薬剤師会　常務理事）

（50 音順、敬称略）

②研修会運営委員会

研修会の運営スキル（ワークショップ等）を有する者により構成した。

本事業においては、ワーキンググループＢが担当した「災害時対応」に関する研修内容について組織した。

（日本薬剤師会関係）

小林　祐司（日薬災害対策委員会　副委員長）
伊藤　裕子（日薬災害対策委員会　委員）
越智　哲夫（日薬災害対策委員会　委員）
串田　慎也（日薬災害対策委員会　委員）
髙野　真　（日薬災害対策委員会　委員）
堀岡　広稔（日薬災害対策委員会　委員）
宮田　憲一（日薬災害対策委員会　委員）
森田　慶子（日薬災害対策委員会　委員）

（病院関係）

小林　映子（日本赤十字社医療センター　薬剤部）
富永　綾　（山形大学医学部附属病院　薬剤部）
藤江　直輝（大阪急性期・総合医療センター　薬局）

（50 音順、敬称略）

③研修プログラム評価委員会

事業実施委員会及び①②の構成員以外の外部有識者により組織した。

吉山　友二（北里大学薬学部　教授、評価委員会委員長）
加藤　裕久（昭和大学薬学部　教授）

（敬称略）

（3）会議の開催状況

会議の開催状況は以下のとおり。会議を開催するほか必要に応じ電子メールによる協議を行った。

◆事業実施委員会

平成 29 年 9 月 26 日
平成 29 年 12 月 12 日
平成 30 年 3 月 6 日

①研修プログラム策定委員会

【ワーキンググループA】
平成 29 年 12 月 6 日
【ワーキンググループB】
平成 29 年 12 月 4 日
平成 30 年 1 月 25 日（研修会運営委員会と合同開催）
【ワーキンググループC】
平成 29 年 11 月 8 日

②研修会運営委員会

平成 30 年 1 月 25 日（ワーキンググループBと合同開催）

③研修プログラム評価委員会

平成 30 年 2 月 12 日

5．事業実施期間

平成 29 年 9 月 11 日（採択通知受理日）～平成 30 年 3 月 30 日

資料１　薬剤師生涯教育推進事業実施要綱

薬剤師生涯教育推進事業実施要綱

（平成 22 年４月 22 日付薬食発 0422 第 12 号医薬食品局長通知
最終改正：平成 29 年７月 24 日薬生発 0724 第１号）

１．目的

医療技術の高度化・専門分化が進展する中、より良い医療を患者に提供していくためには、病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師を養成する等生涯教育が重要であり、本事業ではその教育を担う薬剤師を育成することを目的とする。

２．事業内容

地域包括ケアシステムにおけるかかりつけ薬剤師・薬局の機能の向上や、病院や地域におけるチーム医療に貢献するために必要な知識及び技能等の習得のための研修等を実施するプログラムの作成及びその指導をすることができる薬剤師の育成を行う。

３．実施主体

本事業の実施主体は、別に定める薬剤師生涯教育推進事業実施法人公募要綱により、採択された法人とする。

４．実施方法

事業の実施に当たっては、病院や地域におけるチーム医療の先行・先端的な取組を行っている薬局や医療機関との連携を図るとともに、全国的に事業を実施するものとする。

５．経費負担等

国は、予算の範囲内で、薬剤師生涯教育推進事業に係る経費について別に定める基準（医療関係者研修費等補助金及び臨床研修費等補助金交付要綱）により補助するものとする。

６．実施時期

この要綱は、平成 29 年７月 24 日より適用する。

Ⅱ　研修プログラムの策定

１．事業実施委員会における検討

事業実施委員会において、「薬剤師生涯教育推進事業実施要綱」に示される研修目的に沿って、病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師の養成に向けその教育を担う薬剤師を育成するための研修内容及び研修会の概略について検討した。その内容は以下のとおり（図表３）。

図表３　指導者研修会の研修内容及び研修会概略

１　研修内容

研修内容は以下アイとし、講義形式とワークショップ形式を組み合わせて行う。

ア）薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割

ⅰ）薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割と活動について

ⅱ）災害時における医療提供体制と薬剤師の役割・活動について

イ）病院や地域におけるチーム医療に必要とされる医療薬学的知識・技術（特にポリファーマシー対策を主眼に）

ⅰ）処方監査や処方提案に向けた医療薬学的知識の充実

ⅱ）医療薬学的知識を背景とした重複投与・多剤投与（ポリファーマシー、ＡＭＲ対策等）回避のための手法を用いた一元的継続管理と医薬品の適正使用の確保に向けた取り組み

上記アイに関する地域での研修展開や実践に向けた取り組み方策についても研修内容（ワークショップの課題）に含める。

２　研修期間・場所

２日間、東京都内（研修時間を確保するため、交通至便な立地の会場を賃借する）

３　研修の対象

地域包括ケアシステムの実現（2025 年目途）を見据えての、地域のチーム医療の実践につなげることのできる指導者養成の趣旨から、受講者は原則 40 歳代までの医療機関または薬局に従事している薬剤師とし、都道府県薬剤師会からの推薦（１県２名、薬局薬剤師１名、病院薬剤師１名）及び一般募集とする。ワークショップ形式を含む点から、受講者数の最大値は 110 ～ 120 人程度。

受講料・教材費は無料とする。

研修会を企画する際に考慮した点として、研修の対象を地域包括ケアシステムの実現（2025 年目途）を見据えた指導者養成の観点から、受講者を原則 40 歳代までの薬剤師とすることとしたことがある。これは、地域の医療政策の変化や将来構想などの政策的背景を考慮した上で、地域の実情を踏まえた薬剤師業務の充実を牽引していける指導者の育成という点を強く考慮し

たものである。

また、研修時間については連続した２日間とし、１日目においては薬剤師がおかれている医療政策等の理解を深めるとともに、平時のみならず災害等の非常時における地域医療も含めた地域のリーダーとしての資質向上を図るプログラムを計画した。２日目にはそうした背景や薬剤師としての理念・使命感等を踏まえた上での「対人業務」に関して、今後より充実が求められる業務としての、処方監査や処方提案に向けた医療薬学的知識の充実、医療薬学的知識を背景として重複投薬・多剤投与（ポリファーマシー等）回避のための手法を学ぶことで医薬品の適正使用に向けた最新の知識や能力の習得を目的としたプログラムを計画した。このプログラムを一貫して受講することにより、地域の実情に応じた研修の企画・指導や、チーム医療の実践につなげることのできる地域の指導的立場を担い、地域のリーダーとしてチーム医療を実践していける薬剤師の育成を目指した。

なお、研修内容の検討にあたっては、平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業実施法人公募要領（平成 29 年７月．厚生労働省）に明記された「６．応募法人の審査－（３）審査の観点－③研修内容について」（図表４）を参考とした。

図表４　平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業実施法人公募要領（抜粋）

（３）審査の観点

③ 研修内容について（研修プログラムの妥当性）

・全国的な研修体制が確保されているか。

・かかりつけ薬剤師・薬局の機能（重複投与・多剤投与への対応や地域包括ケアシステムにおける役割等）の向上に関する指導をできる薬剤師の育成に必要な研修が組まれているか。

・病院や地域におけるチーム医療に必要な知識及び技能を指導できる薬剤師の育成に必要な研修が組まれているか。

・研修後に受講者による研修成果の活用を促す点が考慮されているか（生涯教育を担う薬剤師として病院や薬局の薬剤師に対する研修実施等）。

・災害発生時に備え、地域における災害時の医薬品等や薬剤師に関する調整業務を担える人材の育成に係る研修が含まれているか。

２．研修プログラム策定委員会における検討

事業実施委員会において検討された研修内容（図表３）に基づき、研修プログラム策定委員会に３つのワーキンググループを設置した。各ワーキンググループにおいて、研修会で学ぶべき事項を検討の上、具体的なプログラムの検討及び講師の選定を行った。

また事業目的に鑑み、受講者には、研修内容の理解をより深めるとともにワークショップや討議がスムーズに行えるよう、研修会の受講前に地域の実情等をあらかじめ調べた上で受講するよう、事前課題（下調べ）を課すこととした【資料２】。

■ワーキンググループＡ　研修内容ア－ｉ［地域医療体制］

【学ぶべき事項】

①地域医療に関する政策等の基本的知識と医療を取り巻く現状

地域の指導者として知っておくべき、地域医療・介護・保健等に関する政策の基本的知識。その背景となる医療・介護の一体改革や予防重視への転換等、医療政策の変化も含めた医療のあり方の変化等についてなども含む。

②病院薬剤師を取り巻く現状と今後の課題

③薬局薬剤師を取り巻く現状と今後の課題

②③：①を受けて、病院薬剤師・薬局薬剤師それぞれの現状と課題について。病院薬剤師、薬局薬剤師が取り組む薬物療法の最新トピックス（病棟薬剤業務、在宅医療や地域医療ネットワークにより対応した薬局業務など）も含む。自身の置かれている環境についてのみならず、相互の立場や業務について理解を深めることも目的とする。

④地域包括ケア（システム）について

言葉や概念についての知識だけでなく、関係者の関わりなど実際の姿について。

⑤他職種が薬剤師に求めるもの

地域包括ケア（システム）において、他職種の視点から薬剤師に求められるものについて。

（①～⑤について講義形式）

【受講者への事前課題】

・薬局薬剤師：自県の医療計画における、薬剤師や薬局に求められている役割や位置づけなどに関する記載内容について

・病院薬剤師：自県の医療計画における、薬剤師や自身の勤務する医療機関に求められている役割や位置づけなどに関する記載内容について

■ワーキンググループＢ　研修内容ア - ii［災害時対応］

【学ぶべき事項】

①わが国の災害医療体制

②災害時における活動原則

①②：災害医療に関する法規、制度に関する基本的知識（医療関係機関の担う役割・機能等を含む）と、災害医療に携わる者が知っておくべき災害時の指揮命令系統や情報伝達などについて。

③薬剤師の支援活動

④薬剤師班の立ち上げから活動の流れ

③④：災害時における医薬品の供給・調剤（災害時処方箋を含む)、避難所における活動などについて（実例を交えつつ)。

⑤災害時における薬剤師の役割・業務

平時における地域医療提供体制を踏まえた上で、災害等の特殊な状況下でも医療提供体制（医薬品等の供給や災害医療班との連携、薬剤師班としての地域活動）の確保を図るべく、地域の指導的役割を担う能力を身につける。

（①～④について講義形式、⑤についてワークショップ形式）

【受講者への事前課題】

・薬局薬剤師：①自県の医療救援活動計画の全体像と、薬剤師・薬局・医薬品に関する記載

内容について
②薬剤師会と都道府県または地元自治体との災害協定等の締結状況とその内容について
・病院薬剤師：①自県の医療救援活動計画の全体像と、主たる医療機関の役割等について
②自身の勤務する医療機関の災害時の活動計画について
・共　　通：過去の災害時に発出された、調剤や医薬品供給等に関する厚生労働省等通知等（概略のみ）

■ワーキンググループC　研修内容イ［チーム医療の実践］
【学ぶべき事項】
①患者の状態に応じた薬物療法の適正化、重複投与・多剤投与（ポリファーマシー等）への対応等のための最新の医療薬学的知識
検査値・臨床薬理・薬物動態学的手法などについて。
②医療薬学的知識を背景に実施する重複投薬・多剤投与回避・改善のための手法とその実際
医療技術の高度化が進展する中、薬剤師には、患者の状態に応じた薬物療法の適正化、重複投与・多剤投与への対応等がより一層求められる。先進的な施設や地域で実践されている最新の手法を学び地域で展開するための知識と能力を身につける。
（①について講義形式、②についてワークショップ形式）
【受講者への事前課題】
・共　　通：地元の医療ネットワーク（患者情報の共有等）の状況や医療機関の検査値開示等の状況

また、各ワーキンググループでの議論において、学んだ事項を地域での実践につなげることが重要であり、研修会にそのための仕掛けが組み込めないかとの提案があった。
本事業においては、地域での取り組みにつなげるため、受講者への事後課題として地域の実情に応じた研修計画案の立案を課すこととしていたが、委員からの提案を受けて、研修会の最後に受講者同士でこの課題について議論を行えるセッションを設けることとした。また各ワークショップにおいて、単に手法を学習することにとどまることのないよう、常に地域での実践を念頭においたワークとなるよう、内容と進行について講師及びファシリテーターと十分に事前打合せを行うこととした。

３．研修会運営委員会の開催

研修会を円滑に運営するため、ワーキンググループBが担当した「災害時対応」に関する研修内容について研修会運営委員会を組織し、平成30年1月25日にワーキンググループB会議との合同で研修会運営委員会を開催した。委員会ではワークショップの課題の設定と進め方について議論し、追加でメールによる協議を行い、ワークショップの内容と運営方法を決定した。
なおワーキンググループCが担当した「チーム医療の実践」に関しては、ワークショップ内容について講師との十分な打合せを行った上でファシリテーターが講師により選定されたこと、

また研修会当日に打合せを行うことで十分に対応可能であったため、会議体としての運営委員会は組織しなかった。

次世代薬剤師指導者研修会　受講者事前課題

受講者各位におかれては、以下について自県の状況をあらかじめ情報収集・資料にお目通しをいただいた上で（いわゆる予習）、研修会の受講をお願いします。

研修項目ア）薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割

【第一日午前】

ｉ）薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割と活動について

○薬局薬剤師：	自県の医療計画における、薬剤師や薬局に求められている役割や位置づけなどに関する記載内容について
○病院薬剤師：	自県の医療計画における、薬剤師や自身の勤務する医療機関に求められている役割や位置づけなどに関する記載内容について

【第一日午後】

ⅱ）災害時における医療提供体制と薬剤師の役割・活動について

○薬局薬剤師：	①自県の医療救援活動計画の全体像と、薬剤師・薬局・医薬品に関する記載内容について ②薬剤師会と都道府県または地元自治体との災害協定等の締結状況とその内容について
○病院薬剤師：	①自県の医療救援活動計画の全体像と、主たる医療機関の役割等について ②自身の勤務する医療機関の災害時の活動計画について
○共　　通：	過去の災害時に発出された、調剤や医薬品供給等に関する厚生労働省等通知［http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/iyakuhin.html］ （災害時にどのような措置が取られ得るかの前例として、概略（通知の題など）についてお目通しください）

研修項目イ）病院や地域におけるチーム医療に必要とされる医療薬学的知識・技術

【第二日】

○共　　通：	地元の医療ネットワーク（患者情報の共有等）の状況や医療機関の検査値開示等の状況

Ⅲ　研修会の開催

１．研修会概要

■研修会名称：

次世代薬剤師指導者研修会

■目的：

病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師の養成に向け、地域の実情に応じた研修の企画・指導や、チーム医療の実践につなげることのできる地域の指導的立場を担う薬剤師（病院・薬局）の育成。

■主催：

公益社団法人 日本薬剤師会

■日時：

平成 30 年 2 月 11 日（日）・12 日（月・祝）

■会場：

フクラシア丸の内オアゾ ホールＡ

〒 100-0005 東京都千代田区丸の内 1-6-5　丸の内北口ビルディング 16 階

２．研修会プログラム及び講師、ファシリテーター

研修プログラム策定委員会各ワーキンググループの検討の上決定されたプログラム及び講師は以下のとおり（敬称略）。時間割等については研修会次第を参照のこと【資料３】。

【第１日】

薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割について（災害時を含む）

＜午前＞

研修内容ア－ｉ

薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割と活動について

	演題・講師
講義①	薬剤師を取り巻く状況について 森　　昌平（日本薬剤師会　副会長）
講義②	病院薬剤師業務の現状と課題 川上　純一（日本病院薬剤師会　副会長）

講義③	薬局薬剤師業務の現状と課題 吉田　力久（日本薬剤師会　常務理事）
講義④	地域包括ケアシステムの実現に向けた関係者の連携 ～薬剤師に期待すること～ 大原　昌樹（綾川町国民健康保険陶病院　院長）

＜午後＞

研修内容ア - ii

災害時における医療提供体制と薬剤師の役割・活動について

	演題・講師
講義①	わが国の災害医療体制 大友　康裕（日本集団災害医学会　理事）
講義②	災害時における活動原則と薬剤師の支援活動 渡邉　暁洋（日本災害医療薬剤師学会　理事）
講義③	薬剤師班の立ち上げから活動の流れ 小林　祐司（日本薬剤師会　災害対策委員会　副委員長）
ワークショップ	地域での体制整備に向けた取り組み方策に関する討議 ～災害発生時の薬剤師の役割～ 永田　泰造（日本薬剤師会　常務理事）

ワークショップファシリテーター

小林　祐司　（日薬災害対策委員会　副委員長）
伊藤　裕子　（日薬災害対策委員会　委員）
越智　哲夫　（日薬災害対策委員会　委員）
串田　慎也　（日薬災害対策委員会　委員）
髙野　真　　（日薬災害対策委員会　委員）
堀岡　広稔　（日薬災害対策委員会　委員）
宮田　憲一　（日薬災害対策委員会　委員）
森田　慶子　（日薬災害対策委員会　委員）
小林　映子　（日本赤十字社医療センター　薬剤部）
富永　綾　　（山形大学医学部附属病院　薬剤部）
藤江　直輝　（大阪急性期・総合医療センター　薬局）

【第２日】

病院や地域におけるチーム医療に必要とされる医療薬学的知識・技術について

＜午前＞

研修内容イ－ i

処方監査や処方提案に向けた医療薬学的知識の充実

	演題・講師
講義①	薬剤師に求められる役割と必要な知識と技術 - 昔から変わらぬこと 宮﨑　長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
講義②	臨床検査値を活用した薬学的管理 石井　伊都子（千葉大学医学部附属病院薬剤部　教授・薬剤部長）
講義③	ポリファーマシー対策に必要な薬理・薬物動態学の理解と活用 大野　能之（東京大学医学部附属病院薬剤部　助教・副薬剤部長）
講義④	ポリファーマシー対策の指針の解説と活用方法について 秋下　雅弘（東京大学大学院医学系研究科 加齢医学 教授）

＜午後＞

研修内容イ－ii

医療薬学的知識を背景とした重複投与・多剤投与（ポリファーマシー等）回避のための手法を用いた一元的継続管理と医薬品の適正使用の確保に向けた取り組み

	演題・講師
ワーク ショップ	ポリファーマシー対策に向けて～必要な視点と考え方～ 溝神　文博（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター薬剤部）

ワークショップファシリテーター

新井　さやか（千葉大学医学部附属病院　薬剤部）

那須　いずみ（国家公務員共済組合連合会　虎の門病院　薬剤部）

丸岡　弘治　（介護老人保健施設　横浜あおばの里　薬剤部）

平井　みどり（神戸大学　名誉教授）

	演題・講師
グループ 討議	地域で活かす方策について （薬薬連携・他職種連携の推進、チーム医療の実践につながる研修の立案） 島田　光明（日本薬剤師会　常務理事）

３．研修会の開催

事業目的に鑑み、研修会名称は「次世代薬剤師指導者研修会」とし、開催日程については研修時間が確保できかつ薬剤師が参加しやすい日曜日を含む連休に設定することとし、平成 30 年２月 11 日（日）・12 日（月・祝）に開催した。受講者は、地域包括ケアシステムの実現（2025 年目途）を見据えての地域の指導者養成の趣旨から原則 40 歳代までの薬剤師とした。

都道府県薬剤師会から推薦された受講者（薬局薬剤師 47 名、病院薬剤師 45 名）及び一般受講者（薬局薬剤師７名、病院薬剤師４名）の合計 103 名の受講申込があった。悪天候による福

井県受講者の欠席や体調不良による欠席のため、当日の受講者数は以下のとおり。

都道府県薬剤師会推薦　薬局薬剤師 46 名、病院薬剤師 44 名

一般募集　薬局薬剤師６名、病院薬剤師３名　計 99 名【資料４】

研修会はワークショップ形式を含むことから座席は島型配置とし、地域のチーム医療の実践につなげるという事業目的に鑑み同一県の受講者は同じグループになるように配置し、近隣県でグループ化した。一般受講者は可能な限り自身の県と近隣県のグループになるように配置した。研修会の運営リソース等については【巻末資料３】のとおり。

研修会はプログラムどおりに進行し、ワークショップ及びグループ討議では受講者による活発な議論が交わされた。各講義及びワークショップの資料は【巻末資料１】のとおり。

99 名全員が全日程を受講し、受講者には修了証を交付した。

写真１　講義の様子

写真２　ワークショップの様子

写真３　修了証交付の様子

平成29年度　薬剤師生涯教育推進事業　次世代薬剤師指導者研修会　プログラム

場所：フクラシア丸の内オアゾ ホールA

1日目(2月11日・日)

研修項目：ア）薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割

	研修内容				演題	講師
午前	ⅰ）薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割と活動について	10:00	–	開会		
		10：00～10：05	5分	開会挨拶		山本　信夫（日本薬剤師会　会長）
		10：05～10：15	10分	趣旨説明		宮﨑　長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
		10：15～10：45	30分	講義①	薬剤師を取り巻く状況について	森　　昌平（日本薬剤師会　副会長）
		10：45～11：25	40分	講義②	病院薬剤師業務の現状と課題	川上　純一　先生（日本病院薬剤師会　副会長）
		11：25～11：40	15分	休憩		
		11：40～12：20	40分	講義③	薬局薬剤師業務の現状と課題	吉田　力久（日本薬剤師会　常務理事）
		12：20～13：00	40分	講義④	地域包括ケアシステムの実現に向けた関係者の連携～薬剤師に期待すること～	大原　昌樹　先生（綾川町国民健康保険陶病院　院長）
		13：00～13：45	45分	昼食	弁当	
午後	ⅱ）災害時における医療提供体制と薬剤師の役割・活動について ⅲ）地域での体制整備に向けた取り組み方策（ワークショップ）	13：45～13：55	10分	午後プログラムの導入		有澤　賢二（日本薬剤師会　常務理事）
		13：55～14：25	30分	講義①	わが国の災害医療体制	大友　康裕　先生（日本集団災害医学会　理事）
		14：25～15：15	50分	講義②	災害時における活動原則と薬剤師の支援活動	渡邉　暁洋　先生（日本災害医療薬剤師学会　理事）
		15：15～15：35	20分	講義③	薬剤師班の立ち上げから活動の流れ	小林　祐司（日本薬剤師会　災害対策委員会　副委員長）
		15：35～15：50	15分	休憩		
		15：50～17：55	125分	ワークショップ	地域での体制整備に向けた取り組み方策に関する討議 ～災害発生時の薬剤師の役割～	永田　泰造（日本薬剤師会　常務理事）
		17：55～18：00	5分	まとめ	1日目プログラムのまとめ	宮﨑　長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
		18:00	–	閉会		

2日目(2月12日・月祝)

研修項目：イ）病院や地域におけるチーム医療に必要とされる医療薬学的知識・技術（特にポリファーマシー対策を主眼に）

					演題	講師
午前	ⅰ）処方監査や処方提案に向けた医療薬学的知識の充実	9:15	–	開会		
		9：15～9：45	30分	講義①	薬剤師に求められる役割と 必要な知識と技術 –昔から変わらぬこと–	宮﨑　長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
		9：45～10：30	45分	講義②	臨床検査値を活用した薬学的管理	石井　伊都子　先生（千葉大学医学部附属病院薬剤部　教授・薬剤部長）
		10：30～10：45	15分	休憩		
		10：45～11：30	45分	講義③	ポリファーマシー対策に必要な薬理・薬物動態学の理解と活用	大野　能之　先生（東京大学医学部附属病院薬剤部　助教・副薬剤部長）
		11：30～12：15	45分	講義④	ポリファーマシー対策の指針の解説と活用方法について	秋下　雅弘　先生（東京大学大学院医学系研究科 加齢医学 教授）
		12：15～13：00	45分	昼食	弁当	
午後	ⅱ）医療薬学的知識を背景とした重複投与・多剤投与（ポリファーマシー、AMR対策等）回避のための手法を用いた一元的継続管理と医薬品の適正使用の確保に向けた取り組み ⅲ）地域での研修展開や実践に向けた取り組み方策（ワークショップ）	13：00～13：10	10分	午後プログラムの導入		宮﨑　長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
		13：10～15：20	130分	ワークショップ	ポリファーマシー対策に向けて～必要な視点と考え方～	溝神　文博　先生（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 薬剤部）
		15：20～15：30	10分	休憩		
		15：30～16：30	60分	グループ討議	地域で活かす方策について（薬薬連携・他職種連携の推進、チーム医療の実践につながる研修の立案）	島田　光明（日本薬剤師会　常務理事）
		16：30～16：40	10分	まとめ	受講者アンケートの記入、2日目プログラムのまとめ	島田　光明（日本薬剤師会　常務理事）
		16：40～16：45	5分	総括	2日間の研修の総括・修了証交付	乾　　英夫（日本薬剤師会　副会長）
		16:45	–	閉会		

資料４　出席者名簿

平成29年度　薬剤師生涯教育推進事業　次世代薬剤師指導者研修会　参加者名簿

日時：平成30年2月11日（日）10：00～18：00～　12日（月・祝）9：15～16：45
会場：フクラシア丸の内オアゾ「ホールA」（千代田区丸の内1-6-5　丸の内北口ビル16階）

都道府県薬剤師会参加者	グループ	薬局薬剤師 氏　名	病院薬剤師 氏　名	一般参加者 グループ	氏　名	薬局／病院
北海道	①	坂田　祐樹	前田　直大	②	大森　嵩（北海道）	薬局
青　森	①	坂井　義人		③	田中　寿和（北海道）	薬局
岩　手	①	八巻　貴信	高橋　典哉	⑥	毛塚　友浩（栃木）	薬局
宮　城	①	齋藤　涼子	石井　勇太			
秋　田	②	大越　雄一郎	田口　伸	⑨	上野　暢之（滋賀）	薬局
山　形	②	今井　隆裕	市川　勇貴	⑭	家本　亜希子（山口）	薬局
福　島	②	藤田　元	渡部　寿康	⑬	田内　晋（高知）	薬局
茨　城	③	沼倉　貴史	鈴木　弘道	②	河内　佐記（群馬）	病院
栃　木	③	村井　加代子	篠﨑　桂子			
群　馬	③	高野　由博	橋場　弘武	⑥	齋藤　奈沙（東京）	病院
埼　玉	④	抜井　留理子	永野　浩之	⑫	上ノ段　友里（大分）	病院
千　葉	④	横田　秀太郎	原　敬一			
東　京	④	根本　陽充	長谷川　晃一			
神奈川	④	神原　大輔	稲葉　健二郎			
新　潟	⑤	長澤　貴明	宮川　哲也			
富　山	⑤	安吉　万里子	藤井　浩司			
石　川	⑤	圓居　外士典	坪内　清貴			
福　井	⑥	水上　弘樹	有田　諭			
山　梨	⑥	遠藤　晃	橘田　文彦			
長　野	⑥	清水　誠	松原　重征			
岐　阜	⑦	堺　千紘	田中　和秀			
静　岡	⑦	大重　由香理	正木　銀三			
愛　知	⑦	橋村　孝博	山田　成樹			
三　重	⑦	水谷　賀典	高井　靖			
滋　賀	⑧	川嶋　徹也	道家　雄太郎			
京　都	⑧	中林　保	多胡　和樹			
大　阪	⑨	堀越　博一	山本　智也			
兵　庫	⑨	田中　千尋	谷野　巧			
奈　良	⑧	新田　朋弘	志野　訓之			
和歌山	⑨	瀧　一洋				
鳥　取	⑩	中福　優子	太田　友樹			
島　根	⑩	山田島　智治	吉田　勝好			
岡　山	⑩	立野　朋志	石橋　真実			
広　島	⑩	平本　敦大	荒川　隆之			
山　口	⑫	原　洋司	佐藤　真也			
徳　島	⑪	伊勢　佐百合	森　理保			
香　川	⑪	高島　望	近藤　宏樹			
愛　媛	⑪	中西　雅哉	越智　理香			
高　知	⑪	伊藤　悠人	野村　政孝			
福　岡	⑫	髙瀬　真悟	兼重　晋			
佐　賀	⑫	小島　望帆	中野　里美			
長　崎	⑬	宮﨑　彰宣	山口　健太郎			
熊　本	⑬	佐藤　良太郎	山下　博之			
大　分	⑬	藤原　総司	加藤　博和			
宮　崎	⑭	永崎　一樹	関屋　裕史			
鹿児島	⑭	川畑　信浩	岸本　真			
沖　縄	⑭	西川　裕	潮平　英郎			

日本薬剤師会
会　　長：山本　信夫
副 会 長：乾　英夫、森　昌平
常務理事：宮﨑　長一郎、有澤　賢二
吉田　力久、永田　泰造
川上　純一、島田　光明

講　師

【2月11日】
川上　純一
大原　昌樹
大友　康裕
渡邉　暁洋
小林　祐司

【2月12日】
石井　伊都子
大野　能之
秋下　雅弘
溝神　文博

研修事業委員
吉山　友二
加藤　裕久
平井みどり

ファシリテーター

【2月11日】
小林　祐司
伊藤　裕子
越智　哲夫
串田　慎也
髙野　真
堀岡　広稔
宮田　憲一
森田　慶子
小林　映子
富永　綾
藤江　直輝

【2月12日】
新井　さやか
那須　いずみ
丸岡　弘治
平井みどり

受講者数９９名　（県薬枠：薬局46名、病院44名／一般枠：薬局6名、病院3名）

Ⅳ　研修プログラムの評価

1．受講者アンケート

研修効果の測定、研修プログラムの評価を目的として、受講前後に受講者アンケートを実施した。

結果は以下のとおり。

■回収率

受講前：100%（99／99枚）

終了後：97%（96／99枚）

■勤務先比率

薬局と病院はほぼ半々であった。「その他」はなし（対象外のため）。

■基本情報

男女比率：おおよそ、女性が2割、男性が8割。

年齢比率：薬局・病院とも40代が一番多かった。病院の方が若干40代の占める割合が多かった（薬局5割、病院6割）。例外的に50代の受講者もあった。

■受講者アンケート（受講前）まとめ

平成29年度　薬剤師生涯教育推進事業 次世代薬剤師指導者研修会　受講者アンケート（受講前）まとめ

回収率：99人/99人　　100.0%

1.回答者の基本情報

		全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
①勤務先		99	52	47	100.0%	52.5%	47.5%
②性別	1：女性	18	10	8	18.2%	19.2%	17.0%
	2：男性	80	41	39	80.8%	78.8%	83.0%
	無回答	1	1	0	1.0%	1.9%	0.0%
③年齢	1：20代	2	1	1	2.0%	1.9%	2.1%
	2：30代	40	23	17	40.4%	44.2%	36.2%
	3：40代	55	26	29	55.6%	50.0%	61.7%
	4：50代以上	1	1	0	1.0%	1.9%	0.0%
	無回答	1	1	0	1.0%	1.9%	0.0%

1-④.本研修会への参加理由（複数選択可）

	全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
都道府県薬剤師会から推薦されたから	86	44	42	86.9%	84.6%	89.4%
地域の指導的立場として活動したいから	18	10	8	18.2%	19.2%	17.0%
地域の研修の企画・指導に役立てたいから	25	15	10	25.3%	28.8%	21.3%
チーム医療を実践したいから	20	8	12	20.2%	15.4%	25.5%
その他	1	0	1	1.0%	0.0%	2.1%

2.研修会で身に付けたいことは？（複数選択可）

	全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
1①　医療提供体制	89	47	42	89.9%	90.4%	89.4%
1②　災害	74	38	36	74.7%	73.1%	76.6%
1③　地域での体制整備	77	41	36	77.8%	78.8%	76.6%
2①　医療薬学的知識	83	44	39	83.8%	84.6%	83.0%
2②　医薬品の適正使用	88	47	41	88.9%	90.4%	87.2%
2③　地域での実践	86	45	41	86.9%	86.5%	87.2%

2-2.研修会で最も関心があるテーマは？（1つだけ選択）

	全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
1：1①医療	13	7	6	13.1%	13.5%	12.8%
2：1②災害	6	2	4	6.1%	3.8%	8.5%
3：1③体制整備	4	3	1	4.0%	5.8%	2.1%
4：2①医療薬学知識	11	7	4	11.1%	13.5%	8.5%
5：2②適正使用	23	9	14	23.2%	17.3%	29.8%
6：2③地域での実践	14	7	7	14.1%	13.5%	14.9%
無回答・無効回答	28	17	11	28.3%	32.7%	23.4%

3.現段階での自己評価

		全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
①日常の業務で、地域の多職種と連携すること	1:実践している	26	16	10	26.3%	30.8%	21.3%
	2:ある程度	45	27	18	45.5%	51.9%	38.3%
	3:あまり	22	7	15	22.2%	13.5%	31.9%
	4:できない	4	0	4	4.0%	0.0%	8.5%
	無回答	2	2	0	2.0%	3.8%	0.0%
②地域包括ｹｱｼｽﾃﾑの実現に向けた連携体制をつくること	1:実践している	10	8	2	10.1%	15.4%	4.3%
	2:ある程度	42	28	14	42.4%	53.8%	29.8%
	3:あまり	35	13	22	35.4%	25.0%	46.8%
	4:できない	12	3	9	12.1%	5.8%	19.1%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
③地域の災害医療の活動に参加すること	1:実践している	13	8	5	13.1%	15.4%	10.6%
	2:ある程度	29	15	14	29.3%	28.8%	29.8%
	3:あまり	29	15	14	29.3%	28.8%	29.8%
	4:できない	28	14	14	28.3%	26.9%	29.8%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
④臨床検査値を活用して薬学的管理を行うこと	1:実践している	30	7	23	30.3%	13.5%	48.9%
	2:ある程度	45	27	18	45.5%	51.9%	38.3%
	3:あまり	18	14	4	18.2%	26.9%	8.5%
	4:できない	5	4	1	5.1%	7.7%	2.1%
	無回答	1	0	1	1.0%	0.0%	2.1%
⑤臨床薬理・薬物動態学を活用して薬学的管理を行うこと	1:実践している	18	3	15	18.2%	5.8%	31.9%
	2:ある程度	56	31	25	56.6%	59.6%	53.2%
	3:あまり	22	15	7	22.2%	28.8%	14.9%
	4:できない	3	3	0	3.0%	5.8%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑥不適切なﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰを改善するために薬学的管理を行	1:実践している	13	6	7	13.1%	11.5%	14.9%
	2:ある程度	53	29	24	53.5%	55.8%	51.1%
	3:あまり	26	13	13	26.3%	25.0%	27.7%
	4:できない	7	4	3	7.1%	7.7%	6.4%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑦薬剤耐性（AMR）を防ぐための薬学的管理を行うこと	1:実践している	6	0	6	6.1%	0.0%	12.8%
	2:ある程度	37	14	23	37.4%	26.9%	48.9%
	3:あまり	39	25	14	39.4%	48.1%	29.8%
	4:できない	17	13	4	17.2%	25.0%	8.5%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑧研修会を企画すること	1:実践している	37	22	15	37.4%	42.3%	31.9%
	2:ある程度	34	15	19	34.3%	28.8%	40.4%
	3:あまり	17	10	7	17.2%	19.2%	14.9%
	4:できない	11	5	6	11.1%	9.6%	12.8%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%

■受講者アンケート（受講後）まとめ

平成29年度　薬剤師生涯教育推進事業 次世代薬剤師指導者研修会　受講者アンケート（研修終了時）まとめ

回収率：96人/99人　　97.0%

1.回答者の基本情報

		全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
①勤務先		96	50	46	100.0%	52.1%	47.9%
②性別	1：女性	18	10	8	18.8%	20.0%	17.4%
	2：男性	78	40	38	81.3%	80.0%	82.6%
③年齢	1：20代	2	1	1	2.1%	2.0%	2.2%
	2：30代	39	23	16	40.6%	46.0%	34.8%
	3：40代	52	24	28	54.2%	48.0%	60.9%
	4：50代以上	1	1	1	1.0%	2.0%	2.2%
	無回答	2	1	0	2.1%	2.0%	0.0%

1-④.本研修会への参加理由（複数選択可）

	全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
都道府県薬剤師会から推薦されたから	88	47	41	91.7%	94.0%	89.1%
地域の指導的立場として活動したいから	17	10	7	17.7%	20.0%	15.2%
地域の研修の企画・指導に役立てたいから	23	13	10	24.0%	26.0%	21.7%
チーム医療を実践したいから	19	8	11	19.8%	16.0%	23.9%
その他（文章を記載）	3	1	2	3.1%	2.0%	4.3%

2.研修会はいかがでしたか？

		全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
①日程の設定	1：適切	56	30	26	58.3%	60.0%	56.5%
	2：どちらとも	31	18	13	32.3%	36.0%	28.3%
	3：不適切	8	2	6	8.3%	4.0%	13.0%
	無回答	1	0	1	1.0%	0.0%	2.2%
②全体の時間の長さ	1：適切	53	25	28	55.2%	50.0%	60.9%
	2：どちらとも	40	22	18	41.7%	44.0%	39.1%
	3：不適切	3	3	0	3.1%	6.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
③研修の流れ（進行）	1：適切	85	45	40	88.5%	90.0%	87.0%
	2：どちらとも	11	5	6	11.5%	10.0%	13.0%
	3：不適切	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
④全体として	1：適切	81	42	39	84.4%	84.0%	84.8%
	2：どちらとも	13	8	5	13.5%	16.0%	10.9%
	3：不適切	1	0	1	1.0%	0.0%	2.2%
	無回答	1	0	1	1.0%	0.0%	2.2%
⑤ワークショップにスムーズに参加できましたか？	1：はい	79	42	37	82.3%	84.0%	80.4%
	2：どちらとも	16	8	8	16.7%	16.0%	17.4%
	3：いいえ	1	0	1	1.0%	0.0%	2.2%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑥日頃の業務に活かせそうですか？	1：はい	82	43	39	85.4%	86.0%	84.8%
	2：どちらとも	14	7	7	14.6%	14.0%	15.2%
	3：いいえ	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑦地域活動に活かせそうですか？	1：はい	80	42	38	83.3%	84.0%	82.6%
	2：どちらとも	16	8	8	16.7%	16.0%	17.4%
	3：いいえ	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑧研修会の企画に活かせそうですか？	1：はい	81	44	37	84.4%	88.0%	80.4%
	2：どちらとも	14	5	9	14.6%	10.0%	19.6%
	3：いいえ	1	1	0	1.0%	2.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%

3.今後、実践できそうですか

		全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
①日常の業務で、地域の多職種と連携すること	1:できる	29	19	10	30.2%	38.0%	21.7%
	2:ある程度	62	28	34	64.6%	56.0%	73.9%
	3:あまり	5	3	2	5.2%	6.0%	4.3%
	4:できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
②地域包括ｹｱｼｽﾃﾑの実現に向けた連携体制をつくること	1:できる	23	17	6	24.0%	34.0%	13.0%
	2:ある程度	62	27	35	64.6%	54.0%	76.1%
	3:あまり	11	6	5	11.5%	12.0%	10.9%
	4:できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
③地域の災害医療の活動に参加すること	1:できる	24	17	7	25.0%	34.0%	15.2%
	2:ある程度	54	24	30	56.3%	48.0%	65.2%
	3:あまり	17	9	8	17.7%	18.0%	17.4%
	4:できない	1	0	1	1.0%	0.0%	2.2%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
④臨床検査値を活用して薬学的管理を行うこと	1:できる	50	19	31	52.1%	38.0%	67.4%
	2:ある程度	42	29	13	43.8%	58.0%	28.3%
	3:あまり	4	2	2	4.2%	4.0%	4.3%
	4:できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑤臨床薬理・薬物動態学を活用して薬学的管理を行うこと	1:できる	40	13	27	41.7%	26.0%	58.7%
	2:ある程度	50	33	17	52.1%	66.0%	37.0%
	3:あまり	4	3	1	4.2%	6.0%	2.2%
	4:できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	2	1	1	2.1%	2.0%	2.2%
⑥不適切なﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰを改善するために薬学的管理を行うこと	1:できる	41	18	23	42.7%	36.0%	50.0%
	2:ある程度	52	30	22	54.2%	60.0%	47.8%
	3:あまり	3	2	1	3.1%	4.0%	2.2%
	4:できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑦研修会を企画すること	1:できる	37	24	13	38.5%	48.0%	28.3%
	2:ある程度	51	22	29	53.1%	44.0%	63.0%
	3:あまり	6	3	3	6.3%	6.0%	6.5%
	4:できない	1	0	1	1.0%	0.0%	2.2%
	無回答	1	1	0	1.0%	2.0%	0.0%

4.本研修のテーマのうち、本研修の受講前後で自身の理解が深まったと感じるテーマを①の欄にご記入ください。

	全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
【講演①】取り巻く状況	67	33	34	69.8%	66.0%	73.9%
【講演②】病院薬剤師	65	34	31	67.7%	68.0%	67.4%
【講演③】薬局薬剤師	62	31	31	64.6%	62.0%	67.4%
【講演④】地域包括ｹｱ	77	39	38	80.2%	78.0%	82.6%
【講演①】災害医療体制	64	33	31	66.7%	66.0%	67.4%
【講演②】薬剤師の支援活動	59	30	29	61.5%	60.0%	63.0%
【講演③】薬剤師班	62	32	30	64.6%	64.0%	65.2%
【WS】地域での体制整備	69	40	29	71.9%	80.0%	63.0%
【講演①】薬剤師に求められる	64	35	29	66.7%	70.0%	63.0%
【講演②】臨床検査値	79	39	40	82.3%	78.0%	87.0%
【講演③】薬理・薬物動態学	81	42	39	84.4%	84.0%	84.8%
【講演④】ﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰ指針	83	44	39	86.5%	88.0%	84.8%
【WS】ﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰ対策	84	43	41	87.5%	86.0%	89.1%
【SGD】地域で活かす方策について	58	32	26	60.4%	64.0%	56.5%

また、自身の地域や病院で今後いっそう対応を深めていく必要があると感じたテーマを②の欄にご記入ください。

	全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
【講演①】取り巻く状況	29	10	19	30.2%	20.0%	41.3%
【講演②】病院薬剤師	32	12	20	33.3%	24.0%	43.5%
【講演③】薬局薬剤師	30	13	17	31.3%	26.0%	37.0%
【講演④】地域包括ｹｱ	60	26	34	62.5%	52.0%	73.9%
【講演①】災害医療体制	51	24	27	53.1%	48.0%	58.7%
【講演②】薬剤師の支援活動	58	32	26	60.4%	64.0%	56.5%
【講演③】薬剤師班	56	32	24	58.3%	64.0%	52.2%
【WS】地域での体制整備	64	31	33	66.7%	62.0%	71.7%
【講演①】薬剤師に求められる	32	16	16	33.3%	32.0%	34.8%
【講演②】臨床検査値	59	30	29	61.5%	60.0%	63.0%
【講演③】薬理・薬物動態学	69	38	31	71.9%	76.0%	67.4%
【講演④】ﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰ指針	64	36	28	66.7%	72.0%	60.9%
【WS】ﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰ対策	69	36	33	71.9%	72.0%	71.7%
【SGD】地域で活かす方策について	58	29	29	60.4%	58.0%	63.0%

5．今後希望する研修テーマ

・医療安全
・感染対策
・栄養指導
・食育
・AMR 対策
・プライマリケア
・フレイル
・疾病予防
・未病
・緩和ケア
・終末期の支援
・受診勧奨
・抗がん剤（安全性など）

・疑義照会プロトコル
・退院時カンファレンス
・薬局での健康教室
・地域ケア会議

・がん患者への支援
・ICT の活用
・終末期医療

・患者側の視点での研修
・他職種連携、薬薬連携の実際、好事例（事例報告など）

・コミュニケーション
・マネジメント
・新人教育（実務実習も含む）
・人材育成
・コーチング
・リーダーシップ
・指導者としての能力を伸ばす内容
・成果の論文化

6．その他感想、意見

■他県とのつながりができたこと、他県の状況を知ることができたことに関するもの

・今回、災害対策など、他県がどれだけしっかりマニュアルをつくり研修されているか分かり、自県でもしっかり決めていかなければならないと実感した。検査値、ポリファーマシーについても病院側、他県の状況、意見が聞けてとても参考になった。
・近くの県の現状を知ることができ、自分の県の充実している点と遅れている点を知ることが出来た。
・多県の若手の人たちの話を聞けて刺激になった。勉強になりました。ありがとうございました。
・今回の研修会を通して各地域の薬剤師の先生たちとグループワークなどを通して情報交換や意見交換ができ充実した２日間でした。また日薬の先生や様々な先生方の熱い御講演に共感することができ、ぜひ自分たちも地域の医療により積極的に参加をしたいと思います。

■自身の意欲向上に関するもの

・最初は長いかなと感じていたが、病院薬剤師業務の理解や、災害時での迅速な対応をするにはどのようにしていかなければならないか勉強になった。また、自分の知らないことを相談できためになった。
・まだ個人的には知識として足りない部分が多いことが分かりました。どうやって物事を進めていくか、実行力も今後身につけていきたいと思いました。
・限られた時間の中で、濃い内容をありがとうございました。今回の内容を全て伝えること

は難しいと思いますが、可能な限り県に広げられるよう努めてまいります。
・がんばっている皆さんに刺激をもらいました。ありがとうございます。
・今回研修会を受けて、苦手な分野が理解できたように思います。これから地域包括のための連携のためがんばれそうです。
・多岐にわたるテーマがあったため、非常に勉強になった。
・貴重な経験させて頂き、ありがとうございました。今後の、次世代のリーダーとしての自覚をもって、日々の業務、活動をしていきます。準備等、本当にお疲れ様でした。

■薬局薬剤師と病院薬剤師が同じ研修を受けたことに関するもの
・病薬と県薬が一緒に参加できたのはよかった。親睦会等もあったほうがよかった。
・２日間よい研修を受けることができた。県に持ち帰り、学びの機会を考えたいと思います。隣県、同県の病院薬剤師の先生方と面識を得、１日目の夜にお酒を飲み交わすことが出来てよかったです。
・日薬、病薬共催で行うのがよいと思います。とても良いワークとなり、勉強になりました。

■提案など
・参加者同士がチームとなれるような取り組みの時間があってもよかったのでは。たとえば同じ部屋に泊まったり、ビジョンや価値観を共有し、同期として結束できるような働きかけ。薬剤師会・役員自身のリーダーシップを手本に。
・他ブロックの先生方と情報交換する機会があるとよいと思いました。
・次世代のリーダーを養成していくための研修であれば、リーダーの役割のような WS もあってよかったと思います。
・研修の目的がはっきりしませんでした。自己のスキルアップなのか、地域で研修会企画をする人材を育成するのか？後者に関する研修に重点を置くべきかと思います。

■事業のあり方に関するもの
・研修の目的、主旨を各県薬にもっと周知した上で、参加者を検討していただきたいと思います。また、研修を立案する上で、２月に立てて４月から実行という計画は実現する可能性が低く、本気で考えにくい。
・この内容を持ち帰って研修会を立案、実施していくのは難しい。ある程度のプランを提案してもらいたい。
・自分が習ってもいないことを数時間の研修だけで「はい、持ち帰って実践してください」という日薬のスタンスにいささか違和感を感じる。
・各都道府県に学んだ内容を持ち帰り、研修会を立案すると言う趣旨から、参加者は理事などの立場の方に限定したほうがよいと感じました。

■研修会の運営や内容に関するもの
・もう少し終了時間が早いと助かります（15：00、16：00）。
・もうすこし年度末でない時期に開催して欲しい。
・インフルエンザの時期、雪等での交通障害が考えられる時期の実施はリスクが高い。
・二連休だったので参加できた。
・座学と WS のバランスをもう少し考慮して欲しい。

・講義時は、座席は島ではないほうがスライドを見やすい。
・講師への質問時間を確保して欲しい。
・研修会の主旨が何かもう少しハッキリさせて欲しい。
・もう少しテーマを絞っておこなっては？
・集中力はそんなに持続しません。

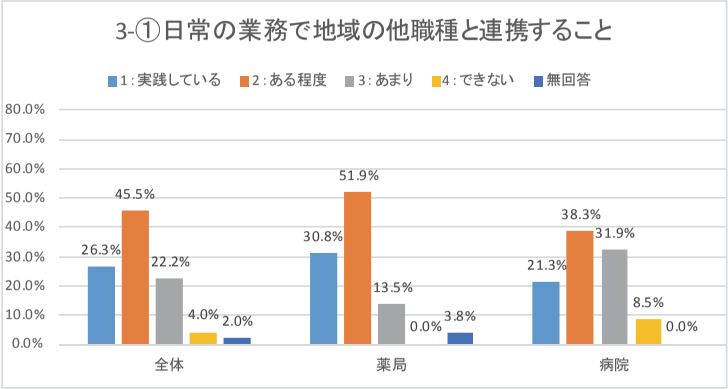
■受講者アンケート（受講前後）比較

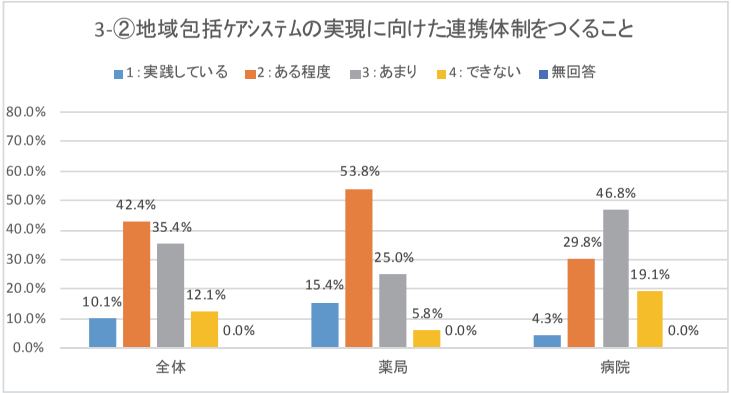
受講前後の自己評価を比較すると、受講後はいずれの項目もより「できる」方に自己評価が高まっていることが確認できた。

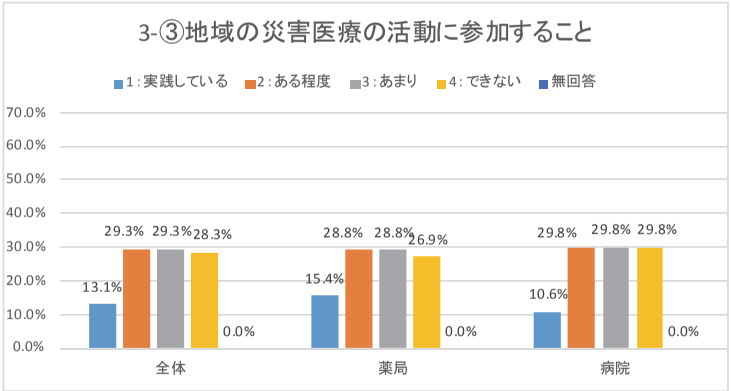
受講前・終了後で比較可能なアンケート項目の比較表

	受講前の自己評価							受講後の自己評価（今後実践できそうか）						
		全体	薬局	病院	全体	薬局	病院		全体	薬局	病院	全体	薬局	病院
①日常の業務で、地域の多職種と連携すること	1：実践している	26	16	10	26.3%	30.8%	21.3%	1：できる	29	19	10	30.2%	38.0%	21.7%
	2：ある程度	45	27	18	45.5%	51.9%	38.3%	2：ある程度	62	28	34	64.6%	56.0%	73.9%
	3：あまり	22	7	15	22.2%	13.5%	31.9%	3：あまり	5	3	2	5.2%	6.0%	4.3%
	4：できない	4	0	4	4.0%	0.0%	8.5%	4：できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	2	2	0	2.0%	3.8%	0.0%	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
②地域包括ｹｱｼｽﾃﾑの実現に向けた連携体制をつくること	1：実践している	10	8	2	10.1%	15.4%	4.3%	1：できる	23	17	6	24.0%	34.0%	13.0%
	2：ある程度	42	28	14	42.4%	53.8%	29.8%	2：ある程度	62	27	35	64.6%	54.0%	76.1%
	3：あまり	35	13	22	35.4%	25.0%	46.8%	3：あまり	11	6	5	11.5%	12.0%	10.9%
	4：できない	12	3	9	12.1%	5.8%	19.1%	4：できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
③地域の災害医療の活動に参加すること	1：実践している	13	8	5	13.1%	15.4%	10.6%	1：できる	24	17	7	25.0%	34.0%	15.2%
	2：ある程度	29	15	14	29.3%	28.8%	29.8%	2：ある程度	54	24	30	56.3%	48.0%	65.2%
	3：あまり	29	15	14	29.3%	28.8%	29.8%	3：あまり	17	9	8	17.7%	18.0%	17.4%
	4：できない	28	14	14	28.3%	26.9%	29.8%	4：できない	1	0	1	1.0%	0.0%	2.2%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
④臨床検査値を活用して薬学的管理を行うこと	1：実践している	30	7	23	30.3%	13.5%	48.9%	1：できる	50	19	31	52.1%	38.0%	67.4%
	2：ある程度	45	27	18	45.5%	51.9%	38.3%	2：ある程度	42	29	13	43.8%	58.0%	28.3%
	3：あまり	18	14	4	18.2%	26.9%	8.5%	3：あまり	4	2	2	4.2%	4.0%	4.3%
	4：できない	5	4	1	5.1%	7.7%	2.1%	4：できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	1	0	1	1.0%	0.0%	2.1%	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑤臨床薬理・薬物動態学を活用して薬学的管理を行うこと	1：実践している	18	3	15	18.2%	5.8%	31.9%	1：できる	40	13	27	41.7%	26.0%	58.7%
	2：ある程度	56	31	25	56.6%	59.6%	53.2%	2：ある程度	50	33	17	52.1%	66.0%	37.0%
	3：あまり	22	15	7	22.2%	28.8%	14.9%	3：あまり	4	3	1	4.2%	6.0%	2.2%
	4：できない	3	3	0	3.0%	5.8%	0.0%	4：できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	無回答	2	1	1	2.1%	2.0%	2.2%
⑥不適切なﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰを改善するために薬学的管理を行うこと	1：実践している	13	6	7	13.1%	11.5%	14.9%	1：できる	41	18	23	42.7%	36.0%	50.0%
	2：ある程度	53	29	24	53.5%	55.8%	51.1%	2：ある程度	52	30	22	54.2%	60.0%	47.8%
	3：あまり	26	13	13	26.3%	25.0%	27.7%	3：あまり	3	2	1	3.1%	4.0%	2.2%
	4：できない	7	4	3	7.1%	7.7%	6.4%	4：できない	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
⑦薬剤耐性（AMR）を防ぐための薬学的管理を行うこと	1：実践している	6	0	6	6.1%	0.0%	12.8%							
	2：ある程度	37	14	23	37.4%	26.9%	48.9%							
	3：あまり	39	25	14	39.4%	48.1%	29.8%							
	4：できない	17	13	4	17.2%	25.0%	8.5%							
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%							
⑧研修会を企画すること	1：実践している	37	22	15	37.4%	42.3%	31.9%	1：できる	37	24	13	38.5%	48.0%	28.3%
	2：ある程度	34	15	19	34.3%	28.8%	40.4%	2：ある程度	51	22	29	53.1%	44.0%	63.0%
	3：あまり	17	10	7	17.2%	19.2%	14.9%	3：あまり	6	3	3	6.3%	6.0%	6.5%
	4：できない	11	5	6	11.1%	9.6%	12.8%	4：できない	1	0	1	1.0%	0.0%	2.2%
	無回答	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	無回答	1	1	0	1.0%	2.0%	0.0%

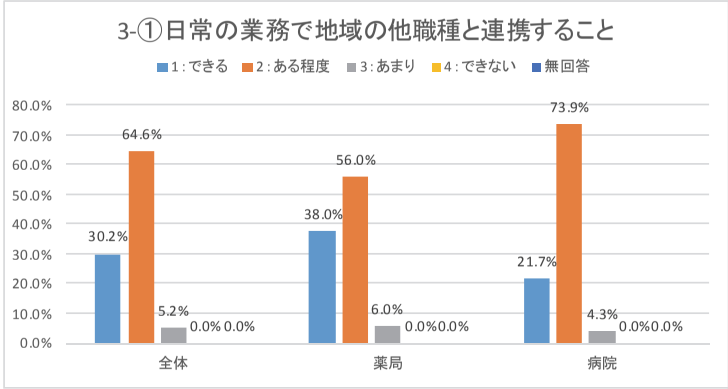
受講前

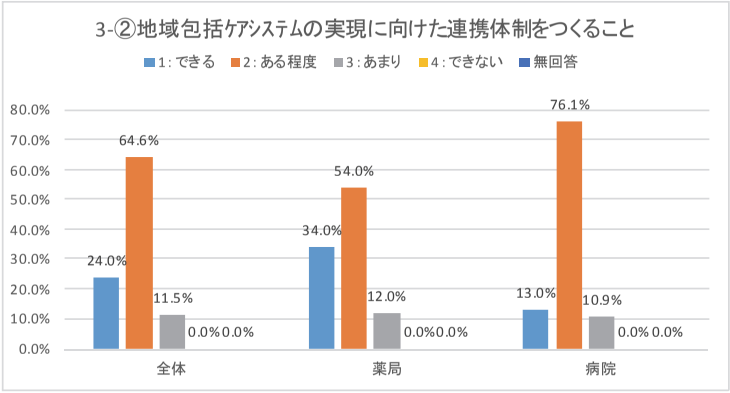

3-①日常の業務で地域の他職種と連携すること
1：実践している
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
80.0%
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
26.3%
45.5%
22.2%
4.0%
2.0%
30.8%
51.9%
13.5%
0.0%
3.8%
21.3%
38.3%
31.9%
8.5%
0.0%
全体
薬局
病院

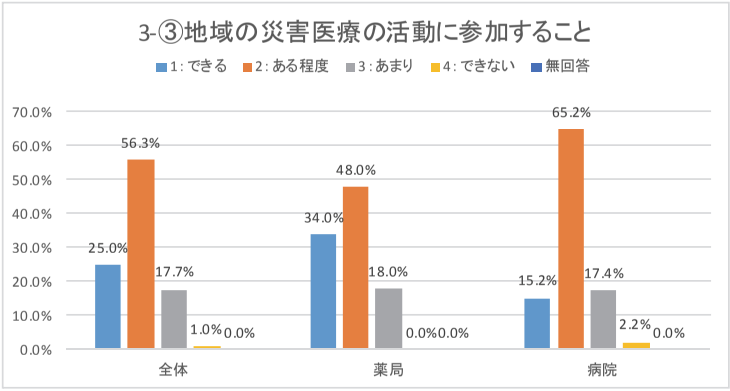

3-②地域包括ｹｱｼｽﾃﾑの実現に向けた連携体制をつくること
1：実践している
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
80.0%
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
10.1%
42.4%
35.4%
12.1%
0.0%
15.4%
53.8%
25.0%
5.8%
0.0%
4.3%
29.8%
46.8%
19.1%
0.0%
全体
薬局
病院

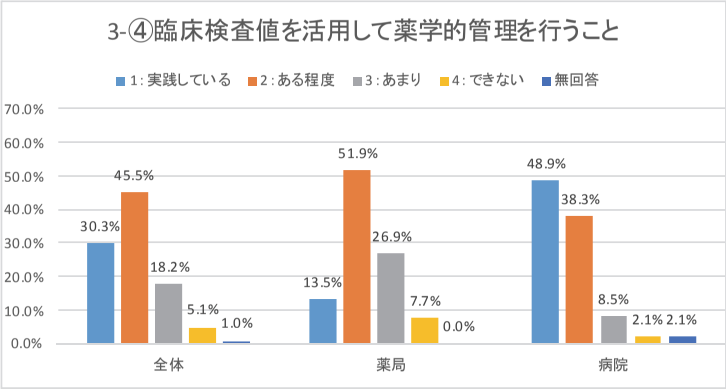

3-③地域の災害医療の活動に参加すること
1：実践している
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
13.1%
29.3%
29.3%
28.3%
0.0%
15.4%
28.8%
28.8%
26.9%
0.0%
10.6%
29.8%
29.8%
29.8%
0.0%
全体
薬局
病院

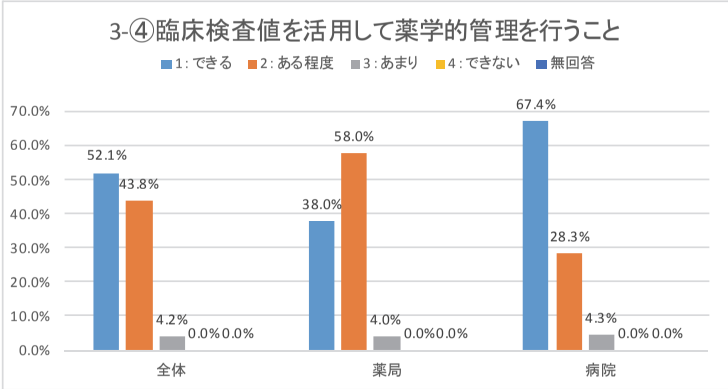
受講後

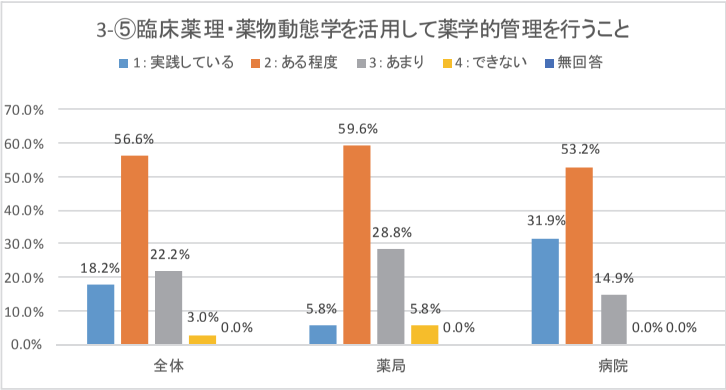

3-①日常の業務で地域の他職種と連携すること
1：できる
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
80.0%
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
30.2%
64.6%
5.2%
0.0%
0.0%
38.0%
56.0%
6.0%
0.0%
0.0%
21.7%
73.9%
4.3%
0.0%
0.0%
全体
薬局
病院

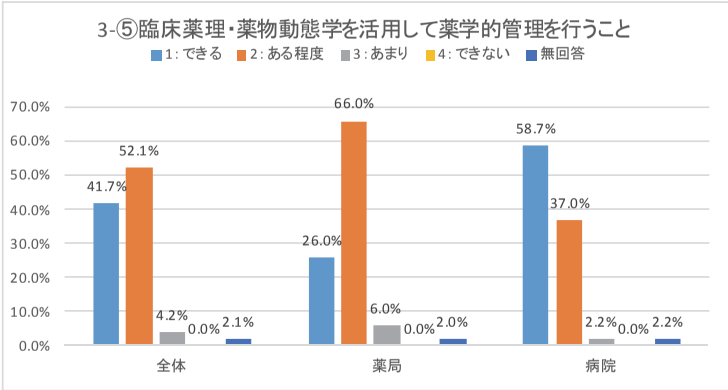

3-②地域包括ｹｱｼｽﾃﾑの実現に向けた連携体制をつくること
1：できる
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
80.0%
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
24.0%
64.6%
11.5%
0.0%
0.0%
34.0%
54.0%
12.0%
0.0%
0.0%
13.0%
76.1%
10.9%
0.0%
0.0%
全体
薬局
病院

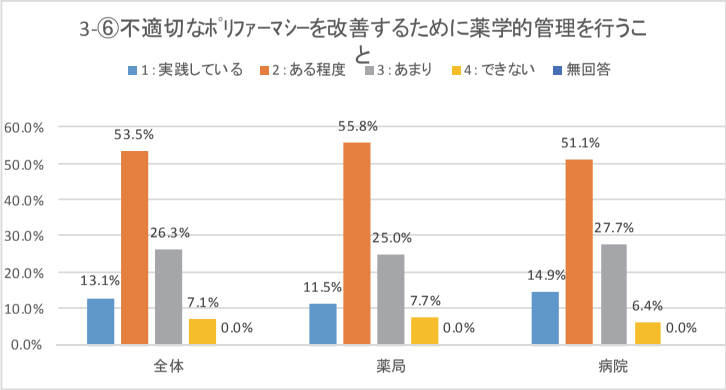

3-③地域の災害医療の活動に参加すること
1：できる
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
25.0%
56.3%
17.7%
1.0%
0.0%
34.0%
48.0%
18.0%
0.0%
0.0%
15.2%
65.2%
17.4%
2.2%
0.0%
全体
薬局
病院

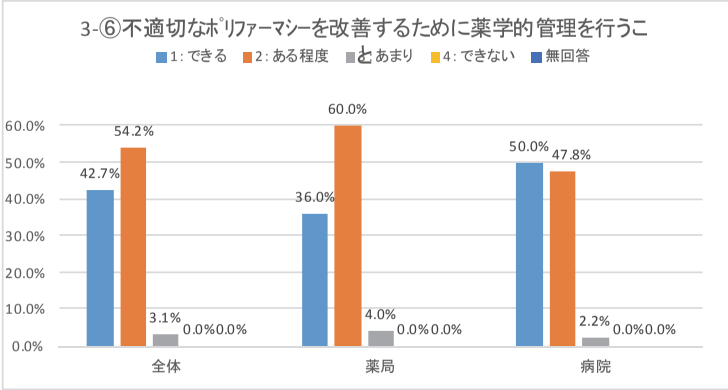

3-④臨床検査値を活用して薬学的管理を行うこと
1：実践している
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
30.3%
45.5%
18.2%
5.1%
1.0%
13.5%
51.9%
26.9%
7.7%
0.0%
48.9%
38.3%
8.5%
2.1%
2.1%
全体
薬局
病院

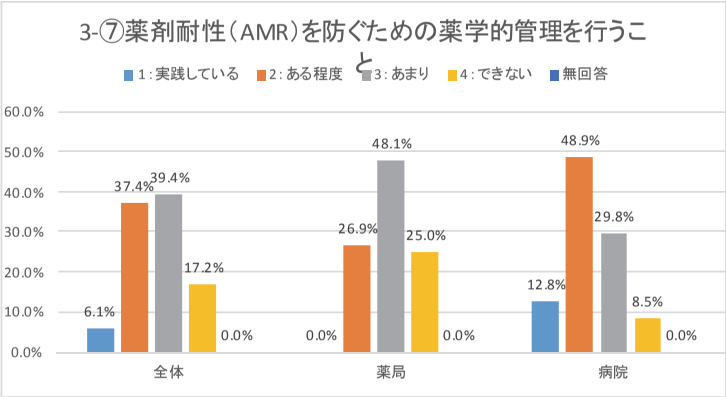

3-④臨床検査値を活用して薬学的管理を行うこと
1：できる
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
52.1%
43.8%
4.2%
0.0%
0.0%
38.0%
58.0%
4.0%
0.0%
0.0%
67.4%
28.3%
4.3%
0.0%
0.0%
全体
薬局
病院

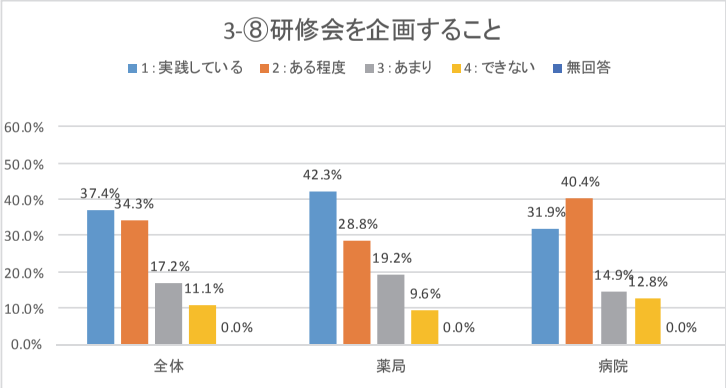

3-⑤臨床薬理・薬物動態学を活用して薬学的管理を行うこと
1：実践している
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
18.2%
56.6%
22.2%
3.0%
0.0%
5.8%
59.6%
28.8%
5.8%
0.0%
31.9%
53.2%
14.9%
0.0%
0.0%
全体
薬局
病院

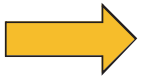

3-⑤臨床薬理・薬物動態学を活用して薬学的管理を行うこと
1：できる
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
41.7%
52.1%
4.2%
0.0%
2.1%
26.0%
66.0%
6.0%
0.0%
2.0%
58.7%
37.0%
2.2%
0.0%
2.2%
全体
薬局
病院

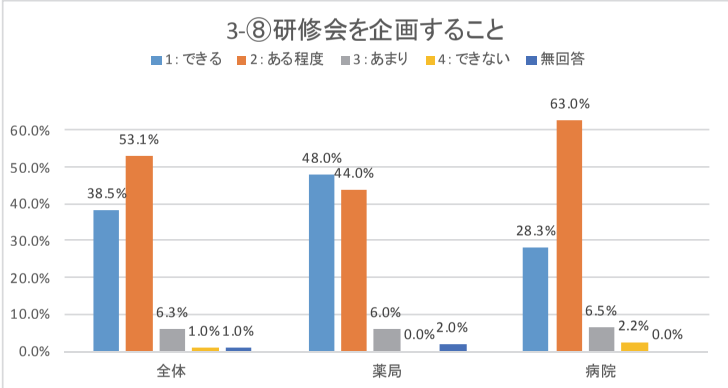

3-⑥不適切なﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰを改善するために薬学的管理を行うこと
1：実践している
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
13.1%
53.5%
26.3%
7.1%
0.0%
11.5%
55.8%
25.0%
7.7%
0.0%
14.9%
51.1%
27.7%
6.4%
0.0%
全体
薬局
病院


3-⑥不適切なﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰを改善するために薬学的管理を行うこと
1：できる
2：ある程度
3：あまり
4：できない
無回答
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
42.7%
54.2%
3.1%
0.0%
0.0%
36.0%
60.0%
4.0%
0.0%
0.0%
50.0%
47.8%
2.2%
0.0%
0.0%
全体
薬局
病院









（注）「3−⑦薬剤耐性（AMR）を防ぐための薬学的管理を行うこと」は、当初計画案にあったものの、今回の研修内容には盛り込めなかったため、今後の参考として受講前アンケート項目に追加した。

２．研修プログラム評価委員会による評価

研修会終了後に研修プログラム評価委員会を開催した。研修プログラム評価委員にはあらかじめ事業の背景や目的と研修会概要を説明した上で研修会を傍聴いただき、事業目的に照らして以下について評価を行った。

【評価の視点】
①研修項目は適当であったか
②研修項目に鑑みて、研修会のプログラム（内容、日程、時間等）は適当であったか
③講師の選定は適当であったか
④講演に含まれる事項は適当であったか（内容の過不足等）

研修プログラム評価委員会には、評価委員会委員のほか、事業実施委員会から２名、研修プログラム策定委員会から１名、受講者代表４名が出席した。

日時：平成 30 年２月 12 日（月・祝）17 時～ 17 時 40 分

出席者：

研修プログラム評価委員
　吉山　友二（北里大学薬学部　教授、プログラム評価委員会委員長）
　加藤　裕久（昭和大学 薬学部 教授）

研修プログラム策定委員
　平井みどり（日本老年薬学会　副代表理事）

受講者代表
　鈴木　弘道（病院薬剤師・茨城県）
　宮川　哲也（病院薬剤師・新潟県）
　高野　由博（薬局薬剤師・群馬県）
　新田　朋弘（薬局薬剤師・奈良県）

事業実施委員会
　有澤　賢二（日本薬剤師会　常務理事）
　宮﨑長一郎（日本薬剤師会　常務理事）

評価委員会における協議のほか、受講者アンケートの結果を踏まえて、研修プログラム評価委員会から講評を受けた。次頁に評価委員会の講評を掲載する。

平成 29 年度　薬剤師生涯教育推進事業 次世代薬剤師指導者研修会プログラムの講評

研修プログラム評価委員会
委員長　吉山友二（北里大学薬学部　教授）

評価対象：平成 29 年度　薬剤師生涯教育推進事業 次世代薬剤師指導者研修会プログラムを評価対象とした。

評価者：研修プログラム評価委員会を平成 30 年 2 月 12 日（月）17：00～17：40 に開催し、下記の研修プログラム評価委員会の出席者から評価を受けた。

■プログラム評価委員
吉山　友二北里大学薬学部　教授
加藤　裕久昭和大学 薬学部 教授
■プログラム策定委員
平井　みどり日本老年薬学会　副代表理事
■受講者代表
鈴木　弘道病院薬剤師・茨城
宮川　哲也病院薬剤師・新潟
高野　由博薬局薬剤師・群馬
新田　朋弘薬局薬剤師・奈良
■事業実施委員会
有澤　賢二日本薬剤師会　常務理事
宮崎　長一郎日本薬剤師会　常務理事

評価方式：研修プログラム評価委員会の出席者により意見交換した。
さらに、プログラム評価委員とプログラム策定委員がプログラム評価シートを活用して 5 段階評価並びにコメントを提出した。
研修プログラム評価委員会委員長が下記の評価視点に基づいて講評した。
本事業目的に照らし、以下について評価を行いたい。
①研修項目は適当であったか
②研修項目に鑑みて、研修会のプログラム（内容、日程、時間等）は適当であったか
③講師の選定は適当であったか
④講演に含まれる事項は適当であったか（内容の過不足等）
⑤その他、事業全体を通じて

評価結果：

①研修項目は適当であったか

プログラム評価委員とプログラム策定委員による５段階評価は、4～5 であった。

主な意見は下記の通りである。

・診療報酬改定直後のポリファーマシーは、テーマとしてタイムリーであった。

・今回の項目が現場ニーズの全てをカバーしているわけではないとは思われるが、現在話題になっている内容、緊急性が高く興味を持たれる人が多い内容、連携を意識する必要がある内容、という点でテーマとしての選択は良かった。

・次世代薬剤師指導者研修会のプログラムとして、よく吟味されたバランスのよい研修項目と評価できる。

②研修項目に鑑みて、研修会のプログラム（内容、日程、時間等）は適当であったか

プログラム評価委員とプログラム策定委員による５段階評価は、4～5 であった。

主な意見は下記の通りである。

・よく考えられた研修であり、特にワークショップの内容は適切であり、準備は大変であったと思われる。

・それぞれの講演は若干忙しかった感じはするが、時間としてはこれくらいが適当かと思われる。

・日程としては、この内容であれば 1 日では難しいであろう。2 月の連休という時期は、今年は寒波と寒波の谷間だったので、無事開会できたが、雪などの季節は避けたほうがいいと思われる。

・次年度の研修計画に組み込むとすれば、ちょっと時期が遅いというご意見もあったので、時期を早めるか、事前に通知を徹底しておく必要がある。

③講師の選定は適当であったか

プログラム評価委員とプログラム策定委員による５段階評価は、4～5 であった。

主な意見は下記の通りである。

・講師はいずれもその分野のエキスパートが務めており、受講者の満足度も高かった。

・講師の選定は概ね良好であった。
一部の講義（2 日目 講義③「ポリファーマシー対策に必要な薬理・薬物動態学の理解と活用」）では、他の講義との格差をやや感じた。一方、2 日目講義②「臨床検査値を活用した薬学的管理」は、非常にわかりやすい講義内容であり、研修者もすぐに実践できるものであった。

④講演に含まれる事項は適当であったか（内容の過不足等）

プログラム評価委員とプログラム策定委員による５段階評価は、3～4 であった。

主な意見は下記の通りである。

・テーマに対して、講演内容は良かった。次世代薬剤師のリーダー育成という意味合いを勘案するならば、「リーダーシップ」、「後輩の育て方」、「参加者が殺到する講演会の組み方」などといった講習も望まれる。

・一部の講義では用意されていたスライドを飛ばすことがあったので、そのようなことのないよう、内容も含めて各講師との事前確認や講師間の事前調整を要する。

⑤受講者を対象としたアンケート調査

本研修の受講前後で自身の理解が深まり、受講者自身の地域や病院で今後いっそう対応を深めていく必要があると感じたテーマは、地域包括ｹｱ、臨床検査値およびﾎﾟﾘﾌｧｰﾏｼｰ対策が上位であった。

また、受講前後の自己評価比較でも、受講後に自己評価が全般に高まる傾向を認めた。

⑥その他、事業全体を通じて（自由記載）

・「健康サポート薬局」を日本薬剤師会として推進するのであれば、それら薬局の横のつながりを作る場を設けることを要望する。

・秋下先生のお話にもあるように、医師会との連携の方策について、実務家レベルでの連携をどう構築するかということを、日本薬剤師会から日本医師会に働きかけて頂きたい。

・若い薬剤師の間で、IT（LINE など）を使った連携の構築が始まっているということは素晴らしい。

・次世代のリーダーシップのあり方は、我々も学ぶところが多い。

・よく準備された研修会であり、事務局のご尽力と参加者の熱意によるものと感じた。

・グループワークでのメンバー構成にも原則、同一都道府県の病院薬剤師と薬局薬剤師を組み合わせるなど工夫があり、病院薬剤師と薬局薬剤師の相互理解に繋がる。

・本研修会の各地域での研修の立案についてグループワークされているが、本研修会後の地域での研修会等の実施とその研修内容を検証する必要がある。可能であれば研修成果を学会等での公表や日本薬剤師会等のホームページに公開すべきと考える。

・全国で使用されている多種類の「お薬手帳」を１つに統一化し、薬歴や検査値などの一元管理化、ICT 化することによりポリファーマシー対策の１つになると考える。
ご検討頂きたい。

・今後、病院薬剤師－薬局薬剤師－大学教員間の連携をさらに図り、エビデンスの構築を目指す必要性を強く感じた。

全体的な評価：

受講者代表の全てが、充実した研修であったと認識していた。また、指導者研修を踏まえて地域におけるチーム医療・薬薬連携の実践につなげる動機付けとなったとのコメントも寄せられたことから、本事業の目的は達せられたことを確信した。

また、来年度の企画について、緩和薬物療法、地域包括ケア、プレアボイド、向精神薬の取り扱いなど多くの提案があったことを申し添えたい。

総じて、平成 29 年度　薬剤師生涯教育推進事業 次世代薬剤師指導者研修会プログラムの成果は大であったことを報告する。

研修プログラム評価委員会からは、次世代薬剤師指導者研修会プログラムの成果は大であったとの評価を受けた。これについては、事業実施委員会が事業目的と内容に関して一貫したイメージを共有できており、研修プログラム策定委員会各ワーキンググループ委員の人選を行えたこと、また各ワーキンググループには様々な関係者、有識者の参画を得て研修内容を検討したことで委員間にも研修目的が共有でき、その上で講師を選定・依頼できたことが成果に繋がったと考えられる。またワークショップに関しても、講師との打合せを行い、研修目的を踏まえた上でワークショップ内容を組み立てていただいたことで、よりよい成果に繋がったと言える。

Ⅴ　施設見学

１．施設見学の目的と概要

当事業においては、チーム医療の実践につなげるため、薬局薬剤師、病院薬剤師が相互の業務環境への理解を深めることを目的として、「次世代薬剤師指導者研修会」の受講者による、薬局（在宅医療、セルフメディケーション支援等）・病院（病棟業務等）の施設相互見学を行うこととし、そのあり方や効果を検証するため、実施地区を選定し以下のとおり実施した。

■目的

チーム医療の実践につなげるため、薬局薬剤師、病院薬剤師が相互の業務環境への理解を深めることを目的とする。

■実施時期

平成 30 年２月～３月中旬

■実施地区（都道府県）

長崎県（事業実施委員会により選定）

■見学者

見学者は次世代薬剤師指導者研修会の受講者とした。

薬局薬剤師は病院見学、病院薬剤師は薬局見学とした。

薬局薬剤師：宮崎　彰宣（パサージュしらぬひ薬局）

病院薬剤師：山口　健太郎（長崎大学病院）

■見学先施設の決定方法

実施県薬剤師会が候補施設を選定し、事業実施委員会が決定した。

薬局：ペンギン薬局

病院：長崎大学病院

■見学内容等

薬局においては在宅医療及びセルフメディケーション支援業務、病院においては病棟業務を可能な限り含むものとして実施した。

なお、見学時間は３時間以上を目安とする。

２．施設見学の実施

施設見学内容について、次に見学者のレポートを掲載する。

薬剤師生涯教育推進事業　次世代薬剤師指導者研修会

薬局見学報告書

長崎大学病院 山口健太郎

見学日時：2018 年 2 月 17 日 13:30〜16:30

見学場所：ペンギン薬局（長崎県長崎市中小島 2 丁目 4-28）

指導者：中村美喜子薬剤師(長崎県薬剤師会 常務理事)

見学内容：

まず薬局内で業務の流れについて説明を受けた。薬局が特定の医療機関も門前という訳ではなく完全な面分業を実施している薬局で、薬局訪問中も近所に住まれている患者が処方箋調剤を求め来局された。同薬局では保険調剤の他、OTC、衛生材料、化粧品類、洗剤などの日用品、日用雑貨、高齢者向けの食品など、多くの商品も取り扱っていて、患者来局時や在宅訪問時に薬剤でカバーできない部分もカバーできる強みがあると感じた。その後実際に訪問する患者の薬剤準備を手伝った。薬剤は一包化されていて朝昼夕の服薬タイミング毎に色線を引いて服薬間違いを防ぐ工夫、またサ高住などの施設の決まりに沿った色分けにするなどの工夫を学んだ。患者訪問前に電話で担当医師とのディスカッション、訪問患者への事前連絡を行った後に患者宅へ向かった。

当日は 3 名の患者宅を訪れた。1 人目は長崎市内の自宅を訪問した。長崎市内は患者宅の多くが山地の小径に沿ってあるため、機動性があり経腸栄養剤などの大型の薬剤が十分に積める、登坂能力が高い小型車輌が適しているようであった。患者は 60 代女性のアルツハイマー型痴呆性患者で病勢が進行して寝たきりの状態で、同居されているご姉妹が看病されていた。このため患者姉に対して説明を行った。訪問当日に医師が往診しており、その際に朝の血圧がやや低いため、服用していた ARB を朝食後から昼食後に変更の指示があった。その事を患者姉に説明後、すでに渡し済みの一包化された薬剤から変更指示があった薬剤を調整し、壁掛けの薬剤カレンダーにセットし直した。寝たきりの患者の側に訪れ、副作用や皮膚乾燥等の患者状態を確認した。

その後、長崎市内のサービス付き高齢者向け住宅を訪問し、2 名の患者のもとを訪れた。いずれも施設スタッフに薬剤の変更がないことを説明し、経腸栄養剤を期限の短いものから並べ替えて設置した。

自宅の患者は姉妹である介護者自身が高齢化し自身も病気があるため、ヒアリングしながら家族に大きな負担とならないような準備が必要であると感じた。また施設ではスタッフが交代で勤務しているため、どのスタッフが見ても間違えないような工夫が必要だと感じた。

日頃病院内での勤務で在宅患者を見る機会が殆どないため、今回の見学は大変勉強するところが多く、貴重な機会だった。

薬剤師生涯教育推進事業　次世代薬剤師指導者研修会

病院見学報告書

パサージュしらぬひ薬局　宮崎彰宣

日時：平成３０年３月７日（水）
場所：長崎大学病院
指導者：龍恵美（薬剤師）　宮永圭（薬剤師）

見学内容
８：３０～　　：朝礼
８：４０～１０：００：調剤室見学・準備
１０：００～１２：２０：病棟業務見学
１２：２０～１３：２０：休憩
１３：３０～１５：５０：緩和ケアカンファランス見学
１５：５０～１６：４０：回診見学
１６：４０～１７：２０：病棟業務見学
１７：３０　　：終了

病棟業務までの時間、注射剤の払い出しの説明を受け、見学を行った。

病棟業務見学。宮永圭先生に同行（心血外・麻酔・耳鼻咽・口腔外 病棟）。担当患者のカルテを確認し処方がなされている場合、処方内容、相互作用、検査値等確認し処方内容に疑問があれば早急に主治医に確認し対応する。午前中の病棟業務では新規患者様３名（弁膜症患者。閉塞性動脈硬化症、透析患者。三叉神経痛患者。）を中心に業務を行った。患者様の情報を確認。入院までの経緯、既往歴、服用薬等を確認。持参薬の鑑別及び登録を行い、間違いがないか他の薬剤師に確認を依頼。情報から入院の目的や治療法を確認。処方薬の増量がなされていた患者には検査値と予防のための目標値を用いて増量の目的をわかりやすくまた患者が安心して服薬を継続していけるような説明を行っていた。検査値を確認して投薬する大切さを感じた。

緩和ケアカンファランス見学。龍先生、宮永先生に同行。緩和ケアチームは医師、歯科医師、薬剤師、担当看護師、栄養士、歯科衛生士、臨床心理士等多職種で形成されている。合同カンファランスは毎週水曜日開催、時には在宅医等も参加される場合もある。カンファランスでは現在関わっている患者様及び新規の患者の情報の共有及び意見交換等を行う。カンファランス後、３チームに分かれて回診。医師、薬剤師（龍先生）チームに同行。回診では患者様の状態、薬の効果、副作用等を確認する。主治医の依頼で緩和ケアチームが患者様に関わるため処方内容変更・追加等を行う場合は速やかに主治医に処方を依頼する。回診時コンサルした処方が間違いなく、遅延なく対応されているかなど確認しながら、必要があれば調整をかけていく。翌日の朝にその効果がどうだったかをカルテで確認後、モーニングカンファを行い回診。合同カンファランスは週１回で長時間になるが朝のモーニングカンファランスは毎日行っており中心的な医師、看護師、薬剤師で集まり３０分ほど行い回診されている。カンファランスの積み重ねで多職種との情報共有及び主治医との連携もスムースに行えていると感じた。また、回診では患者からの信頼も得ており安心感も与えているように感じた。

検査値を活用する必要性、多職種との情報の共有の重要性をあらためて感じる貴重な機会だった。

３．施設見学における留意点・課題

チーム医療の円滑な推進を図る上では、同じ職種である薬局薬剤師と病院薬剤師の連携が重要な役割を果たす。そのためには、お互いの業務内容に関する理解が不可欠になる。特に直近の 10 年を考えた場合においても、薬局薬剤師、病院薬剤師ともその業務内容は大きな変化を遂げている。薬局薬剤師は在宅医療の進展に伴い在宅医療へ進出しており、病院薬剤師はチーム医療の推進のもと、薬剤管理指導業務だけでなく病棟における常駐に対する診療報酬上の手当てがなされているなど、薬剤師の活動環境は薬局・病院それぞれで大きく変貌しつつある。

そこで、本事業においては、薬局・病院の施設相互見学に関する検討を行い、各都道府県で実施するにあたって参考事例となるよう、長崎県において実施した。

（1）薬局業務の見学の視点

地域包括ケアシステムの推進を念頭に置き、在宅医療における薬局薬剤師の活動を実地に見学することとした。同時に、要指導医薬品や第一類医薬品の取扱い等、セルフメディケーション支援における薬剤師の役割についても理解するため、在宅医療とセルフメディケーション支援業務の両方が見学できる薬局を選定した。特に、薬局薬剤師が在宅医療で活動している場を把握することによって、病院薬剤師が薬局薬剤師と連携するにあたって必要な情報等について考える参考となると考えられた。

（2）病院薬剤師業務の見学の視点

病院においては、病棟における薬剤管理指導業務はこれまでも実施されていたが、近年では、診療報酬上で薬剤師の病棟常駐においても点数の設定がなされたことからさらに患者志向が深まっている。そこで、病院薬剤師の業務見学に関しては、病棟における薬剤師の活動に関して見学することとして、活発に活動している長崎大学病院薬剤部に依頼することとした。

その際に、「研修」として取り扱う場合には、研修生は、事前の各種予防接種等が必要となることから、今回は「見学」として取り扱うこととした。また、病棟におけるカンファランスなどは見学者としての参加が難しい面もあったため、長崎大学病院が長年にわたり実施している「緩和ケアオープンカンファランス」に参加することとした。ここでは入院患者や退院間近の患者における緩和ケアに関して議論する場であり、在宅医療を引き受ける開業医や薬剤師や訪問看護師も参加できる場である。そのため薬局薬剤師としては在宅医療に移行する患者を理解する上で参考となるカンファランスと考えられた。

このたびの施設相互見学に際しては、見学先施設と見学者の日程等の調整は長崎県薬剤師会において行った。候補先施設の選定にあたっては、薬局は長崎県薬剤師会の会員が所属する薬局から選定した。また病院に関しては、長崎県薬剤師会副会長が長崎県病院薬剤師会会長であったことから病院薬剤師会との連携も問題なく、また同氏が薬剤部長を勤める長崎大学病院に依頼できたため、調整はスムーズであった。

見学者のレポートからも、見学により相互の業務環境と実際の業務を把握することができ、今後の自身の業務及び連携に活用できるとの効果が見られたことから、このような施設見学を各都道府県・地域単位で行っていくことが望ましい。またこうした機会により都道府県薬剤師

会と都道府県病院薬剤師会の組織同士の連携も深まり、その点でも有用な取り組みであると言える。なお、組織同士での調整にあたっては、各県に設置されている薬剤師研修協議会を活用することも一案かもしれない。

Ⅵ　地域展開に向けた取り組み

１．都道府県薬剤師会との連携・協働

本事業の主たる目的は、地域の実情に応じた研修の企画・指導やチーム医療の実践につなげることのできる地域の指導的立場を担う薬剤師の育成である。同時に、指導者研修を踏まえて地域におけるチーム医療・薬薬連携の「実践」につなげることが本来達成すべき目標であると考えた。

このため本会は、薬剤師会組織としての地域医療の担い手である都道府県薬剤師会との連携・協働を強く念頭に置き、全国の都道府県から受講者を受け入れ全国各地に研修効果を波及できるよう、受講者に都道府県薬剤師会推薦枠を設けた。

また、都道府県薬剤師会推薦の受講者枠を薬局・病院薬剤師それぞれ設けたことにより、地域での薬局と病院のチーム医療の推進にあたってより直接的な効果をもたらすことが期待できる。

さらに、受講者には研修会受講後の課題として「薬薬連携・他職種連携の推進、チーム医療の実践につながる研修計画案」を立案し提出を求めた。同時に、都道府県薬剤師会に対し、受講者が立案した計画案を踏まえつつ、地域の実情に応じた研修の実施や、薬薬連携・チーム医療の推進を各薬剤師会の事業計画に盛り込む等の推進方策の検討・実施を要請した【資料５】。

２．受講後課題（地域等における研修計画の立案）

受講者には、受講後の課題として「薬薬連携・他職種連携の推進、チーム医療の実践につながる研修の立案」を課し、２日間のプログラムの最後にこの課題に関するグループ討議のセッションを設けた。立案に際しては、単にこの２日間のプログラムの再現や資料の伝達ではないことに留意し、この２日間の指導者研修から地域の実態にあわせてテーマに応じた研修会や勉強会のあり方を検討し、実際に実現するためにはどのようなリソース（人的・物的資源）が必要かも含めて検討することを求めた。

受講者が立案した研修計画は【巻末資料２】のとおり。都道府県によっては次年度以降の実施計画として一定の承認を得ているものもある。また一方で受講者による計画案であるものもあり、計画案の各都道府県薬剤師会における位置づけは様々である。

また都道府県薬剤師会推薦枠以外の一般受講者においては、自身の地域や勤務先等における研修の立案を想定して計画いただいた。

３．地域での実現に向けて

本会では、受講者の作成した研修計画案を本報告書に盛り込み都道府県薬剤師会等に周知する。また、受講者が立案した計画案を踏まえつつ、地域の実情に応じた研修の実施や、薬薬連携・チーム医療の推進方策を各薬剤師会の事業計画に盛り込む等の推進方策の検討・実施を引き続き要請していく。

資料５　平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業の実施について（協力依頼）

日薬業発第２１８号
平成２９年１０月５日

都道府県薬剤師会会長　様

日本薬剤師会
会長　山本　信夫

平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業の実施について（協力依頼）

平素より本会業務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本会は本年度、厚生労働省平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業の実施法人として採択を受け、標記事業を実施する運びとなりました。

当事業は、医療技術の高度化・専門分化が進展する中、より良い医療を患者に提供していくため、病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師を養成する等の生涯教育が重要であることから、その教育を担う薬剤師を育成することを目的とされております。この事業目的を受け、本会として、将来の病院や地域の指導的立場を担う薬剤師の研修事業を別添のとおり実施いたします。

本事業は、「患者のための薬局ビジョン」にも示された、薬局・薬剤師が今後果たしていくべき地域医療における役割の実現や、「健康サポート機能」など今後より必要とされる機能や能力のさらなる充実に向けて、まさに時宜を得た、非常に重要な事業であると位置づけております。つきましては、本事業の実施ならびに、事業を踏まえた今後の展開に向け、貴会の特段のご協力をお願い申し上げます。

具体的には、本事業において行う指導者研修では、地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師養成の趣旨から、受講者に各都道府県薬剤師会の推薦枠を設けることとしています。また、地域包括ケアシステムの実現（2025 年目途）を見据え、地域の医療政策の変化や将来構想などの政策的背景を考慮した上で地域の実情を踏まえた薬剤師業務の充実を牽引していける指導者の育成という観点から、受講者は原則 40 歳代までといたします。さらに、指導者研修を踏まえて地域でのチーム医療・薬薬連携の実践や、研修の企画・指導につなげることのできる人材育成を想定し、薬局及び病院の関係者から１名ずつ（計２名）推薦いただくこととしています。

また研修内容に関しては、薬剤師がおかれている医療政策等の理解を深めた上で、平時のみならず災害等の非常時における地域医療提供体制も視野に入れた地域のリーダーとしての資質向上を図るプログラムや、政策的背景や薬剤師としての理念・使命感等を踏まえた上で、「対人業務」として、今後より充実が求められる業務とされている、処方監査や処方提案に向けた医療薬学的知識の充実、さらには医療薬学的知識を背景として重複投薬・多剤投与（ポリファーマシー等）回避のため

の手法を学ぶことで医薬品の適正使用に向けた最新の知識や能力の習得を目的としたプログラムを計画しています。これらのプログラムを一貫して受講することで、地域のリーダーとしてチーム医療の実践を可能とする薬剤師の育成をねらいとしています。

さらに本事業では、指導者研修会の実施のみにとどまらず、指導者研修を踏まえて地域におけるチーム医療・薬薬連携の実践につなげることを本来の目的としております。都道府県薬剤師会におかれましては、指導者研修会の受講者の経験を活かし、地域での研修、また病院薬剤師との勉強会や合同研究・合同事業など、地域の実情に応じた薬薬連携の推進に資する事業の検討・実施について、次年度以降、各薬剤師会の事業計画に盛り込んでいただけるよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、指導者研修会は平成 30 年２月 11～12 日に開催いたします。指導者研修会の概要は別添の別紙１のとおりです。受講者の推薦については、改めてご依頼申し上げますので、あらかじめ人選等につきご高配賜りますよう、併せてよろしくお願い申し上げます。

別添：平成 29 年度　薬剤師生涯教育推進事業の実施について

Ⅶ　まとめ

本事業においては、病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師の養成に向けその教育を担う薬剤師を育成するための研修を行った。また、本研修成果を地域における実践につなげるため、都道府県薬剤師会と連携し受講者の得た成果を都道府県薬剤師会に拡げていくための取り組みを行った。

研修会については、研修プログラム評価委員会から「評価委員会において受講者代表の全てが、充実した研修であったと認識しており、指導者研修を踏まえて地域におけるチーム医療・薬薬連携の実践につなげる動機付けとなったとのコメントも寄せられたことから、本事業の目的は達せられたことを確信した」、「総じて、平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業次世代薬剤師指導者研修会プログラムの成果は大であった」との講評を受けたほか、研修会の受講者からも、「自身の意欲向上につながった」、「他県とのつながりができた」、「薬局・病院のつながりができた」、「自県に持ち帰って実践したい」、などの好意的かつ前向きな意見が寄せられ、概ね企画意図に沿った成果を得られたものと考える。

また受講者アンケートから、薬局・病院間での実践等について開きがある研修項目があり、その点からも今回の研修内容は時機を得たものであった。今後の企画に参考にできるアンケート結果であり、職場環境や学部教育の違いによる実情を把握できた。

「テーマが多すぎる」という意見も一部にあったものの、「一連のプログラムを受講したことでより理解が深まった」、「幅広い見識が得られた」、「薬局薬剤師と病院薬剤師が同じ内容を一緒に学ぶという点がよかった」、などの意見も多かった。そのため、薬局薬剤師・病院薬剤師の相互理解、連携に繋がる基盤が醸成できたという点も評価できるといえる。

また、より一層の充実に向けた課題として、以下の点があった。

●研修内容について

今回の研修会では、指導者として身につけておくべき地域医療に関わる知識や医療薬学的な知識及び実践能力に重点を置いた。しかし、指導者育成が目的であれは、研修プログラム評価委員会の講評及び受講者アンケートにもあるように、人材育成やマネジメントあるいはリーダーシップ等の内容を含めることも今後の検討課題である。

●研修会の実施体制について

今回の研修会では、事業の実施法人が日本薬剤師会であったことから、都道府県薬剤師会推薦枠として薬局薬剤師・病院薬剤師各 1 名の受講を都道府県薬剤師会に求めた。その点について、受講者からは、今後の地域連携につなげるためにも、研修会を日本薬剤師会と日本病院薬剤師会との共催とし、都道府県薬剤師会と都道府県病院薬剤師会が連携して受講者を推薦できるような土台があることが望ましいとの意見もあった。

本年度事業の実施にあたっては、日本病院薬剤師会にも趣旨説明の上、研修プログラム策定委員会の委員及び研修会講師の派遣をいただいた。今後は、都道府県レベルでも両団体の連携がとりやすくなるような事業の実施体制を検討する必要があることが示唆された。オール薬剤師という体制を構築する場合には、日本薬剤師研修センターや都道府県薬剤師研修協

議会も組み入れた実施体制が必要かもしれない。

総じて、本事業で求められる事業目的をどう具現化するかという点について、研修の内容や方法、実施体制についてさらなる工夫を検討する余地がある。特に研修内容については、事業実施要綱や公募時に求められる内容と、実施法人としての日本薬剤師会が展開したい内容と、現場の薬剤師のニーズをどう組み入れ、具体化していくかが課題である。また、指導者育成という主目的についても、チーム医療を牽引する組織のリーダーを育成するか、チーム医療の推進に必要な個別テーマのスペシャリストを育成するか、という点でも研修のあり方は変わってくる。今回の研修会は、内容そのものについては高い評価を得られ、受講者の意識向上に繋がっている。今後の一層の研修の充実のためには、主体と目的を明確化し、受講者や都道府県薬剤師会、また事業に協力いただく関係団体・学会に対して、事業目的の共有や円滑な実施のための環境整備等により一層配慮していく必要がある。

なお、事業実施委員会においては、地域のチーム医療の実践につなげるためには、薬局薬剤師、病院薬剤師のほか、行政薬剤師も研修会に参加できるとなおよい、という意見があったことを附記する。

最後に、地域におけるチーム医療の実践に向けて、本会では、事業の内容及び成果について、受講者の作成した研修計画案とともに都道府県薬剤師会等に周知し、受講者が立案した計画案を踏まえつつ地域の実情に応じた研修の実施や、薬薬連携・チーム医療の推進方策を各薬剤師会の事業計画に盛り込む等の推進方策の検討・実施を引き続き要請していく。また、薬剤師の生涯教育という観点からは、受講者が今後期待するテーマとして挙げた、地域ケア会議、退院時カンファレンス、薬局での健康教室といったテーマから、今後は知識の習得や能力の開発のみならず、それらを発揮していく「場」の構築に関する力を必要と感じていることが示唆された。都道府県薬剤師会及び地域薬剤師会には、本研修会で受講者が得た学びや気づきを踏まえて、各地域において前進的な研修の機会を設けられることを期待する。